



別冊

松戸市立博物館リニューアル基本構想・基本計画

①資料編

野外展示「竪穴住居」

目 次

1. 沿革	1
2. 建築の概要	4
3. 松戸市立博物館協議会	5
4. 松戸市立博物館基本構想・基本計画庁内ワーキング設置要綱	6
5. 計画策定までの経過	
(1) 博物館協議会での協議経過	7
(2) 計画素案（平成 28 年 2 月作成）	8
(3) 松戸市立博物館の常設展示の一部改修について（諮問）	
（平成 29 年 10 月）	23
(4) 松戸市立博物館の常設展示の一部改修について（答申）	
（平成 31 年 3 月）	25
(5) 常設展示利用者調査（令和 3 年 4 月実施）	33

1. 沿革

年月日	事項
昭和 39 年 12 月	松戸市公民館に郷土資料室設置(50 m ²)
昭和 46 年 4 月	(財)松戸市開発協会内に移転、松戸市郷土資料館となる。(227.47 m ²)
昭和 49 年 11 月	松戸市文化ホール内に移転、郷土資料コーナーとなる。(330 m ²)
昭和 56 年 3 月	松戸市文化ホールが博物館相当施設となる。 松戸市美術館(郷土資料館及び古文書館を含む)構想調査会条例制定
昭和 56 年 5 月	松戸市美術館構想調査会発足[委員7名]
昭和 58 年 8 月	松戸市美術館構想調査会、松戸市美術館(郷土資料館及び古文書館を含む)構想について答申(18 回開催)
昭和 59 年 4 月	社会教育部内に美術館準備室設置
昭和 59 年 6 月	松戸市美術館(郷土資料館及び古文書館を含む)建設調査会発足【委員 10 名】
昭和 59 年 11 月	松戸市美術館建設調査会、美術館について答申
昭和 60 年 3 月	松戸市美術館建設調査会、郷土資料館・古文書館について答申(7回開催)
昭和 63 年 9 月	市議会に文化施設建設対策特別委員会設置【委員 15 名】
昭和 63 年 10 月	第4次総合5ヶ年計画で郷土博物館(仮称)建設決定 美術館準備室に博物館担当学芸員を配属
昭和 63 年 11 月	松戸市立郷土博物館展示検討委員会発足【委員 10 名】
昭和 63 年 12 月	建設用地を総合公園「21 世紀の森と広場」内と決定 松戸市立郷土博物館設立懇談会発足【委員8名】
平成元年 3 月	文化施設建設対策特別委員会において建築設計事務所選定方式をプロポーザル方式と決定 松戸市立郷土博物館設立懇談会において展示の基本構想を決定
平成元年 4 月	文化施設建設対策特別委員会において展示設計業者選定方式を特命方式と決定
平成元年 8 月	総合公園「21 世紀の森と広場」内に建設位置決定
平成元年 11 月	松戸市立郷土博物館建築設計事務所選定委員会発足【委員8名】 展示基本設計を(株)乃村工藝社に委託
平成元年 12 月	建築設計事務所を(株)佐藤総合計画に決定
平成 2 年 2 月	建築基本設計を(株)佐藤総合計画に委託
平成 2 年 3 月	建築実施設計を(株)佐藤総合計画に委託
平成 2 年 6 月	展示実施設計を(株)乃村工藝社に委託
平成 2 年 9 月	博物館本体工事を大成・海老澤共同企業体と契約 博物館新築工事着手
平成 3 年 9 月	展示工事及び展示物製作を(株)乃村工藝社に委託、工事・製作着手
平成 4 年 1 月	外構工事着手
平成 4 年 3 月	植栽工事着手
平成 4 年 4 月	美術館準備室から分かれ、博物館開設室設置
平成 4 年 6 月	建築工事、外構工事竣工
平成 4 年 7 月	野外展示工事着手、植栽工事竣工
平成 4 年 9 月	松戸市立博物館条例制定(館名「松戸市立博物館」に決定)

年月日	事項
平成4年12月	野外展示工事竣工
平成5年1月	展示工事竣工
平成5年3月	松戸市立博物館管理運営規則制定
平成5年4月	松戸市立博物館開館(29日) 初代岩崎卓也館長就任
平成5年10月	松戸市立博物館協議会発足【委員10名】
平成6年4月	機構改革にともない市立図書館より市史編さん係を移管
平成6年6月	館蔵「幸田貝塚出土品」266点 国重要文化財指定(28日付)
平成7年6月	博物館登録 千葉県教育委員 平成7年6月9日登録番号第30号 博物館資料数 4,385点 歴史資料 1,686点 考古資料 2,650点 民俗資料 49点
平成8年10月	博物館等資料選定評価委員会発足【委員5名】
平成9年3月	博物館開館5周年記念特別展示(期間:3月20日から5月11日まで)を実施
平成10年4月	博物館事業として「自然史」を加える。(松戸市立博物館条例改正) 機構改革にともない市史編さん係を廃し庶務係に吸収する。
平成13年10月	観覧料に「共通観覧料」を設ける。(松戸市立博物館条例改正)
平成14年6月	松戸市立博物館友の会発足(16日)
平成15年10月	松戸市制施行60周年記念・松戸市立博物館開館10周年記念特別展示(期間:10月11日から11月30日まで)「川の道 江戸川」展を実施
平成18年10月	松戸市根木内歴史公園開園記念 企画展「戦国の城をさぐる」実施(期間:10月7日から11月26日まで)
平成19年12月	松戸市立博物館友の会設立5周年活動記録「5年のあゆみ」刊行
平成20年3月	初代岩崎卓也館長退任
平成20年4月	2代関根孝夫館長就任 組織改革により、係制を廃止 ハイビジョンシアターをミュージアムシアターに改称
平成20年10月	松戸市立博物館開館15周年記念特別展示(期間:10月11日から12月7日まで)東・西」展を実施
平成21年5月	市史編さん委員会に、原始・古代及び中世各部会を設置し、松戸市史上巻改訂事業に本格的に着手。
平成23年3月	東日本大震災発生(11日)
平成23年4月	観覧料「中学生以下は無料」となる。(松戸市立博物館条例改正)
平成24年3月	2代関根孝夫館長退任
平成24年4月	3代望月幹夫館長就任
平成25年10月	松戸市制施行70周年記念・松戸市立博物館開館20周年記念特別展示(期間:10月5日から11月24日まで)「松戸の発掘60年史-市内の遺跡を再検討-」展を実施
平成26年12月	松戸市立博物館等資料選定評価委員会設置要綱」を条例化し、「松戸市立博物館等資料選定評価委員会条例」を制定(平成27年4月1日施行)

年月日	事項
平成 27 年 2 月	松戸市史上巻(改訂版)『原始・古代・中世』を刊行
平成 30 年 4 月	松戸市立博物館管理運営規則第 5 条の観覧料免除等の(1)「大学生及び大学生以下の者を引率する者」を追加、(3)「身体障害者手帳、療育手帳又は精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者」の市内要件を撤廃
平成 30 年 9 月	松戸市制施行 75 周年・松戸市立博物館開館 25 周年記念特別展示(期間 9 月 22 日から 11 月 25 日まで)「ガンダーラー仏教文化の姿と形」展を開催
平成 31 年 3 月	松戸市制施行 75 周年・松戸市立博物館開館 25 周年企画展示(期間:3 月 9 日から 3 月 24 日まで)「日本の太鼓・世界の太鼓」展を開催。21 世紀の森と広場に所在する 21 世紀の森と広場公園管理事務所、森のホール 21、および当館による初の連携企画
令和元年 10 月	消費税率引き上げに伴う観覧料改定
令和 2 年 3 月	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一部の展示を休止(3 月 3 日~31 日)
令和 2 年 4 月	新型コロナウイルス感染症の拡大で、緊急事態宣言が千葉県を含む 1 都 1 府 5 県に出される。(4 月 7 日~5 月 25 日)。これに伴い 4 月 8 日~5 月 31 日の間、臨時休館となる。

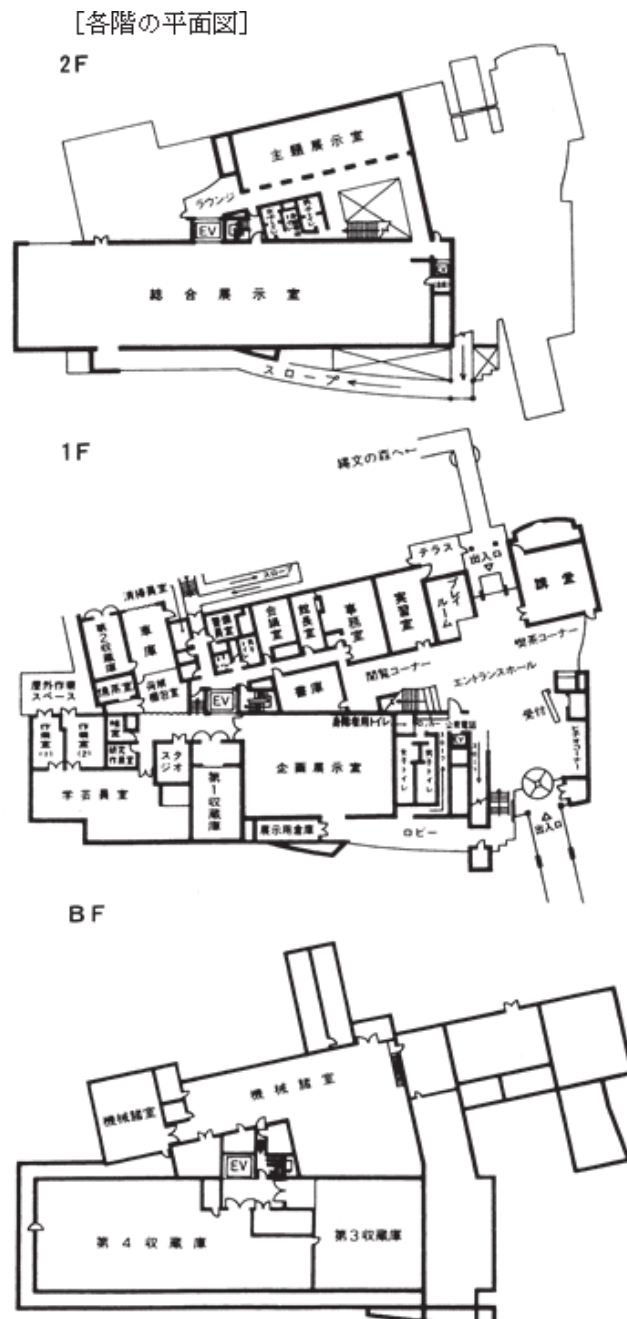
2. 建築の概要

1. 敷地面積: 7,795.81 m²
2. 建築面積: 2,709.92 m²
3. 延床面積: 5,446.73 m²
1階: 2,515.17 m² / 2階: 1,542.92 m² / 地下1階: 1,388.64 m²
4. 階数 地下1階・地上2階
5. 構造 鉄筋コンクリート造一部鉄骨造(展示室 PRC 梁構造)
6. 高さ 14.4m

※博物館周辺環境との調和をはかるため高さを 15m以内に、また地下水などの水脈保全のため地下部分についても 10m以内 に制限して建設を行った。

● 各室の面積

区分	室名	室数	階層	面積 (㎡)
展示部門	総合展示室	1	2	873.4
	主題展示室	1	2	215.09
	企画展示室	1	1	318.85
	展示用倉庫	1	1	33.12
	小計			1,440.46
収蔵・保存部門	第1収蔵庫	1	1	102.67
	第2収蔵庫	1	1	46.2
	第3収蔵庫	1	B1	231.38
	第4収蔵庫	1	B1	472.41
	車庫・荷解梱包室	1	1	109.54
	作業室(1)	1	1	33.71
	作業室(2)	1	1	42.98
	燻蒸室	1	1	31.32
	小計			1,070.21
	教育普及部門	講堂	1	1
実習室		1	1	70.97
ブレイルーム		1	1	51.6
閲覧コーナー		-	1	78.8
ビデオコーナー		-	1	45.66
小計				371.91
調査研究部門	書庫	1	1	50.19
	学芸員室	1	1	193.49
	スタジオ・暗室	1	1	40.3
	研究作業室	1	1	16.99
	小計			300.97
管理部門	館長室	1	1	33.03
	事務室	1	1	83.98
	会議室	1	1	38.27
	警備員室	1	1	25.03
	清掃室	1	1	10.67
	機械諸室	-	B1	575.49
	管理共有部分	-	1	424.54
	小計			1,191.01
サービス部門	エントランスホール	-	1	333.12
	喫茶コーナー	-	1	56.29
	ロビー	-	1	106.32
	スロープ	-	-	196.91
	共有部分	-	-	379.53
	小計			1,072.17
	合計			5,446.73



3.松戸市立博物館協議会

松戸市立博物館条例で、以下のように定められています。

(博物館協議会)

第 8 条 博物館法(昭和 26 年法律第 285 号)第 20 条第 1 項の規定により、博物館に松戸市立博物館協議会(以下「協議会」という。)を置く。

2 協議会は、委員 10 人以内で組織し、次に掲げる者のうちから、教育委員会が任命する。

松戸市立博物館協議会委員

令和 5 年 3 月 31 日時点

	委員区分	委員名	役職等
1	1号委員 学校教育関係者	にしごおり やすき 西郡 泰樹	松戸市立小金小学校校長
2	1号委員 学校教育関係者	おおにし かずき 大西 一樹	松戸市立馬橋北小学校教諭
3	2号委員 社会教育関係者	やまぐち えりこ 山口 恵理子	北部幼稚園副園長
4	2号委員 社会教育関係者	おかだ けいじ 岡田 啓峙	松戸市立博物館友の会相談役
5	2号委員 社会教育関係者	たにしか えいいち 谷鹿 栄一	千葉県立美術館 主任上席研究員
6	3号委員 家庭教育の向上に資する活動を行う者	ひやくた きよみ 百田 清美	NPO 法人ねばあらんど理事長
7	4号委員 学識経験者(建築史学)	はまし まさじ 濱島 正士	国立歴史民俗博物館名誉教授
8	4号委員 学識経験者(近世史)	さとう たかゆき 佐藤 孝之	東京大学名誉教授
9	4号委員 学識経験者(民俗学)	こじま たかお 小島 孝夫	成城大学教授
10	4号委員 学識経験者(考古学)	ひだか しん 日高 慎	東京学芸大学教授

任期:令和 3 年 10 月 1 日から令和 5 年 9 月 30 日まで

4.松戸市立博物館基本構想・基本計画庁内ワーキング設置要綱

(目的)

第1条 この要綱は、博物館リニューアル基本構想・基本計画に向けたワーキングチーム（以下「ワーキングチーム」という。）を設置し、策定に向けて調査・検討及び協議を行うことを目的とする。

(所掌事項)

第2条 ワーキングチームは、博物館リニューアル基本構想・基本計画策定に向けた調査・検討及び協議をする

2 事務局長は、必要に応じ第3条別表に定める以外の者の出席を求め意見を聞くことができる。

3 その他第1条の目的を達成するための必要な事項に関すること。

(組織)

第3条 ワーキングチームは、別表に掲げる構成員をもって組織する。構成員は、第1条の目的が達成される時まで、選任される。変更する場合は、変更選任届を提出する。

2 ワーキングチームは、第1条の目的が達成されたときをもって解散する。

(事務局長)

第4条 ワーキングチームには事務局長を1名置き、事務局長には博物館次長を充てる。

(会議)

第5条 ワーキングの会議は、必要に応じて事務局長が招集する。

(事務局)

第6条 ワーキングチームの事務局は、博物館が行う。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、必要事項は、事務局長が定める。

附 則(期間)

この要綱は、令和元年8月1日から令和3年3月31日まで施行する。

別表(第2条関係)

ワーキングチーム構成員

構成員	経済振興部	文化観光国際課
	子ども部	子どもわかもの課
	街づくり部	21世紀の森と広場管理事務所
	生涯学習部	社会教育課
		生涯学習推進課
学校教育部	指導課	
事務局	博物館	

5. 計画策定までの経過 (1)博物館協議会での協議経過

各年度の博物館協議会

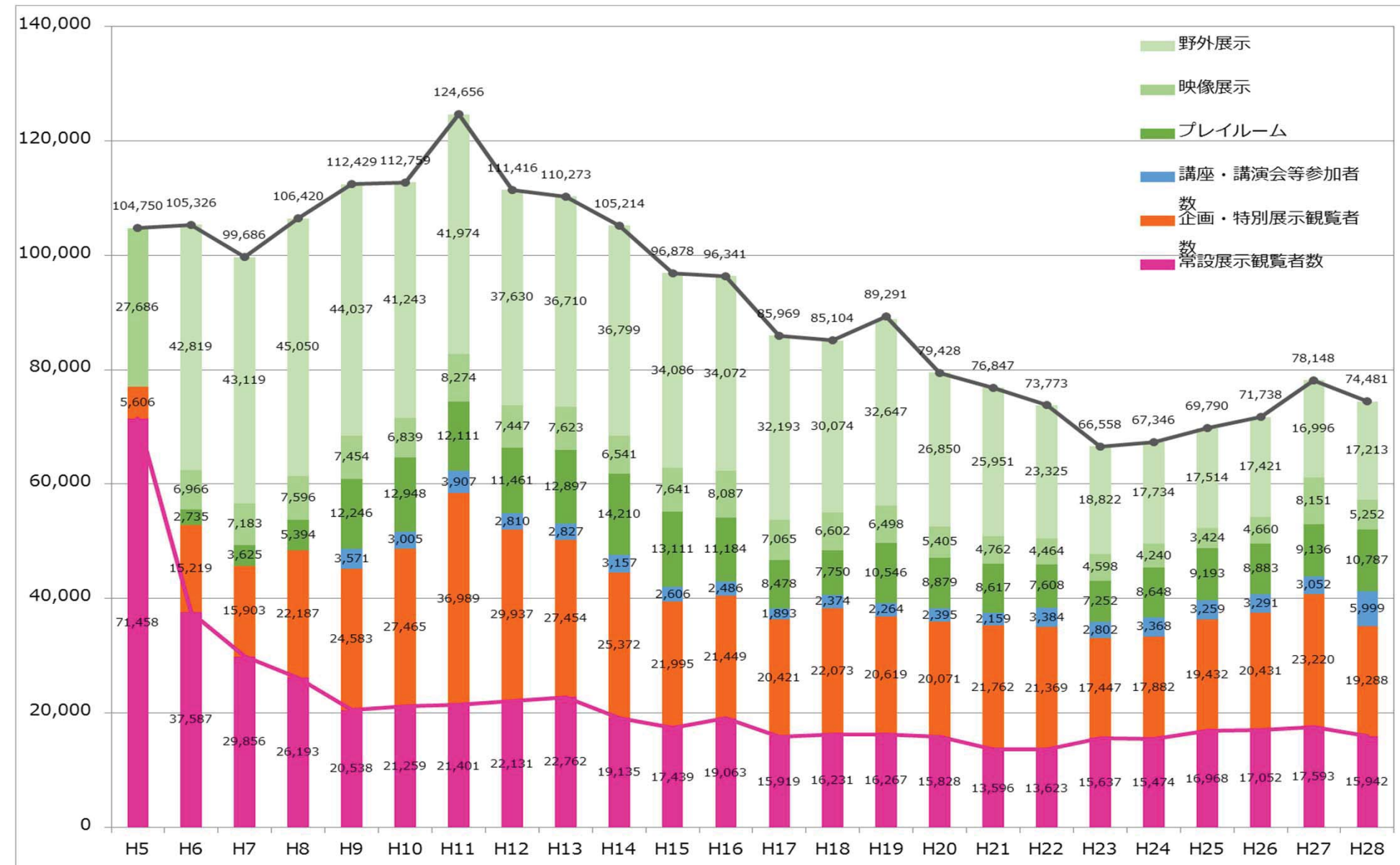
	年度・回	開催年月日	本計画に関する内容
1	平成 29 年度 第 1 回	平成 29 年 6 月 4 日(日)	「(仮称)こども歴史博物館」の展示構想について
2	平成 29 年度 第 2 回	平成 29 年 10 月 8 日(日)	松戸市立博物館の常設展示の一部改修について(諮問)
3	平成 29 年度 第 3 回	平成 30 年 3 月 3 日(土)	松戸市立博物館「(仮称)こども歴史博物館」の展示構想と基本計画(案)について
4	平成 30 年度 第 1 回	平成 30 年 6 月 2 日(土)	「(仮称)こども歴史博物館」の展示構想について
5	(出席不足で会議不成立のため、懇談会として実施)	平成 30 年 11 月 24 日 (土)	「(仮称)こども歴史博物館」の展示構想について
6	平成 30 年度 第 2 回	平成 31 年 3 月 2 日(土)	「(仮称)こども歴史博物館」の展示構想について(答申)
7	令和元年度 第 1 回	令和元年度 8 月 18 日(日)	1. 松戸市立博物館リニューアル基本構想・基本計画策定の今後の進め方について 2. 計画の骨子について 3. 企画展「こどもミュージアムーおとなも楽しい歴史体験ー」視察見学、意見交換
8	令和元年度 第 2 回	令和元年 11 月 16 日(土)	1. 松戸市立博物館リニューアル基本構想・基本計画について 2. (仮称)こども歴史博物館構想について <ul style="list-style-type: none"> ● こどもモニター意見発表 ● 企画展「こどもミュージアム」の検証報告
9	令和元年度 第 3 回	令和 2 年 3 月 7 日(土)	リニューアル基本構想・基本計画について
10	令和 2 年度 第 1 回	令和 2 年 10 月 25 日(日)	松戸市立博物館リニューアル基本構想・基本計画について <ul style="list-style-type: none"> ● 常設展示リニューアルの方針と今年度目標 ● 常設展示内覧 ● リニューアル基本構想・基本計画策定スケジュール
11	令和 2 年度 第 2 回	令和 3 年 3 月 20 日(土)	松戸市立博物館リニューアル基本構想・基本計画骨子(案)について
12	令和 3 年度 第 1 回	令和 3 年 7 月 25 日(日)	松戸市立博物館リニューアル基本構想・基本計画(案)について
13	令和 3 年度 第 2 回	令和 3 年 11 月 14 日(日)	松戸市立博物館常設展示利用者調査の報告について

5.計画策定までの経過 (2)計画素案(平成 28 年 2 月作成)

- 現状分析・・・・・・・・・・9
- 上位計画との整合・・・・・・・・13
- 具体的な方策の析出・・・・・・・・15
- こども歴史博物館・・・・・・・・17

	博物館事業	現状分析	今後の課題・改善策
有料	常設展示	開館の翌年度には観覧者数が減少し、平成9年度以降は2万前後と横ばい傾向にある。平成21年度に13,000人代に落ち込んだが、平成23年度に小中学生の観覧料を無料に改訂したこともあり、それ以降は徐々にではあるが増えつつある。	開館後、展示更新をしていないため、一度見ればよいと判断されており、常設展示の観覧を主目的に利用するケースは少ない。 固定化しない、いつも新鮮な常設展示になり得るよう、刷新が必要。
	企画展示	平成8年度以降は、ほぼ2万人前後の利用者を獲得できているが、平成12年度から企画展の本数と予算が減少したため、利用者数が少々落ち込んでしまっている。	企画展の観覧者が多ければ、利用者総数もあがる傾向が見られることから、利用者数拡大をめざすためには、集客力ある企画展が開催できる予算措置が必要。
無料	講座・講演会等	平成22年度以降、講座数の増加により、平均して3000人前後の参加者を確保している。	館外(学校・町会等)での活動も始めており、今後利用者数は増える可能性大。現状を維持しつつ、利用拡大に努力。
	プレイルーム	平成9~16年度までは1万人以上を超えているが、平成17年度以降は8000人前後にとどまっている。常設展示利用者の減少が影響している可能性がある。	平成27年度から、気軽に参加できるプログラム(ぬり絵、縄文衣装体験等)を開始。利用を拡大し、満足度の高いプログラムの開発を進め、リピーターの確保に努める。
	映像展示	平成19年度までは6千~7千人台で一定した利用者数を確保しているが、平成20年度以降は4千人前後に推移。テーマ設定が企画展等と連動しているため、観覧者数の影響を受けている可能性がある。	映像ソフトが豊富なので、それを生かした活動を今後も展開。ただし、コンテンツの価値が認識されていない。認知度を高め、館外での利用拡大もめざし、学習資源として有効活用できる体制を整備。
	野外展示	平成19年度までは3万人以上の利用があったが、団体利用が減少したことにより、利用者数が減っている。	公園と一体となった利用プログラムを立案し、遠足利用や校外学習の場としての利用拡大をめざす。そのためには、学校、公園や旅行会社との連携・協働体制の強化も必要。

開館からの利用者数の推移



利用者拡大に向けた方策(案)

ハード

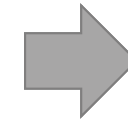
常設展示：常に新鮮な体験を提供できる展示に
改修あるいはリニューアル
次世代の子どもが学べる歴史展示

ソフト

集客力のある企画展の開催(予算確保)
館外での活動展開(講演・映像貸出等)
体験プログラムの拡充(リピーター確保)
学校団体の利用メニューの整備(協働事業)

H5~8 講座・講演会等の参加者数不明
H5 無料空間の利用者数の内訳不明

SWOT分析



今後の成長策・改善策

内部要因・内部環境分析	強み strengths	弱み weakness
	<ul style="list-style-type: none"> ●市の直営なので経営は安定している ●歴史・民俗・考古の3分野の学芸員がバランスよく7名配置されている ●学芸員以外にも利用者と接するスタッフがいる ●多くの体験教室や講座を開催している ●縄文遺跡の豊かな出土資料（重要文化財を含む）がある ●水戸街道や牧などに関する近世史料がある ●東京に近いので情報が得やすく、他館との交流がしやすい ●公園利用者が博物館も利用（家族連れが立ち寄る） ●公園内の野外環境を活用したプログラムを提供 ●周辺に文化施設が隣接している ●小学生の団体利用が多い ●柏市の小学校も利用している ●高齢者の利用も多い ●ミュージアムシアターで投影できる映像ソフトを多く所有しているの で、毎月ソフトを変えることが可能 ●シルクロード関係の資料がある ●喫茶コーナーの料理がおいしい 	<ul style="list-style-type: none"> ●新規事業への予算措置がない ●施設が老朽化（開館後23年経過） ●常設展示が開館以降、更新されていない ●市民や他の施設、町会、商店会等との協働体制が弱い ●友の会以外の歴史ファンのグループの交流が希薄 ●市外、県外の博物館との共同事業が少ない ●観光資源・史跡整備との連携が弱い ●学術的な専門的機関として活用されていない ●博物館が有するコンテンツが市内で有効活用されていない ●館蔵資料の情報が原則非公開で、市民が利用しにくい ●博物館からの情報発信力が弱い ●ホームページは市の規制が強く、改編できない ●中学生・高校生・大学生の利用が少ない ●ファミリー層に休日を過ごす場所として認識されていない ●専用駐車場がない、公園駐車場料金500円が不評 ●小中学生は無料(4年前)だが、高校生以上は有料（常設300円、企画展300円）のため、家族で展示を見るのを妨げている ●周辺の公立博物館は松戸市博よりも規模が小さいが無料、相対的に割高感あり ●身体障害者、70歳以上は市内在住者のみ無料、料金体系の見直しが必要 ●最寄り駅からやや遠い（徒歩15分） ●公園内に博物館があることを知らない人がいる ●開館時に比べると市内部の評価が低下傾向にある ●ミュージアムショップの品揃えが少ない ●上野に近いので、都内の博物館と比べると存在感が薄い
外部要因・外部環境分析	機会 opportunities	脅威 threats
	<ul style="list-style-type: none"> ■子どもの学習のためにお金をかける・時間を割く ■高齢化（市民参加による博物館運営の機会増大） ■松戸市の人口は横ばいだが、世帯数は増えている（子育て層の転入） ■レジャー志向：近場で安く済ませる傾向「安・近・短」 ■社会貢献志向：企業・大学・高齢者が活動の場を求めている、パートナーを求めている ■地域愛：地域を盛り上げたいと考える市民（若い世代も含めて）が増えている ■学習指導要領で博物館利用を推奨 ■小学校で「昔の暮らし」の単元がある ■近隣の柏市に博物館施設がない ■近隣市の類似施設が乏少状況（鎌ヶ谷市は企画展示室がないなど） ■松戸市は、文化・歴史（観光）の魅力PRに重点を置いている ■博物館が文化資源の掘り起こしの中核になり得る可能性がある 	<ul style="list-style-type: none"> ■少子化 ■高齢社会 ■消費税アップによって各家庭でレジャー費用削減の可能性 ■地方自治体の財政難 ■緑環境の減少 ■地球温暖化による自然災害の多発 ■巨大地震 ■戸定歴史館は観光資源として価値が市内で認識されているが、博物館は学術的文化施設としての存在意義が認められていない

強み×機会 成長戦略

学芸員やスタッフから、質の高い博物館体験を提供
松戸の歴史を体験しつつ学べる場
まちづくりを学術的にサポート
公園利用者の博物館利用拡大
文化的価値の高い資料やコンテンツの有効活用 等

↓

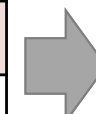
博物館の価値認識を高め、利用拡大を図るためには
情報発信できるしくみや
博物館の資源を市民が有効利用できるしくみが必要

弱み×機会 改善戦略

子育て世代向けのプログラムの開発・拡充
学校団体向けのプログラム拡充
子どもが楽しく歴史学習できる場
常設展示のリニューアル
松戸の歴史資源の学術的研究機関としての機能強化
学習支援のためのデジタルアーカイブの構築（協働）
市民や市の機関との連携・協働体制の強化
協働事業の活性化
家族連れが活用しやすい料金体系
高齢者・障害のある方が利用しやすい料金体系
博物館利用者に向けた公園駐車場料金の減免
駅からのアクセスの改善
駐車場からの案内サインの改善 等

↓

子育て世代・家族連れ・学校団体が利用しやすい施設
に改善していくためには、
博物館の現場だけでなく、市全体での取組が必要



<p>松戸市総合計画・後期基本計画 2011 →第6次実施計画2016 (H28~32)</p> <p>●後期基本計画で定めるめざした未来像 自分たちのまちは自分たちでつくる元気な街 住んでいるのが誇らしく思える街 みんなの協力で賑わいのある街</p> <p>第3節 次代を育む文化・教育環境の創造 すべての市民が生涯にわたって主体的に文化、芸術、スポーツなどを学習できるよう環境を整備し、国際的な広い視野と平和を愛する心が生まれ、郷土に誇りと愛着がもてるまちづくりを進めます。また、次代の担い手である子どもたちが、個性や創造性を備えた自立した人間として成長できるよう、家庭や地域社会とともに子どもたちを育てていきます。</p> <p>政策10 国際的な広い視野と平和を愛する心が生まれ、松戸の歴史や文化・伝統が保持され、後世に伝えられるようにします</p> <p>●めざしたい将来像 平和を大切に、松戸を愛する人を増やすために、日本人も外国人も皆が松戸の歴史や文化・伝統が身近に感じられる工夫をこらして、誰もが誇りの持てる“ふるさと松戸”を実現します。</p> <p>●施策の展開方向 ①固有の文化・伝統に触れることができるようにします 郷土の歴史や伝統・文化を市民に知ってもらうため、文化財の基礎調査を進め、標識柱や案内板を整備します。市立博物館については、「見て・触れて・身体で感じる」とする基本コンセプトは守りつつ、資料の展示方法の改善や展示替えを行い、リピーターにも新しい発見ができるよう創意工夫を凝らしていきます。戸定邸及び戸定歴史館については、隣接する千葉大学松戸キャンパスの緑、イタリア式庭園、フランス式庭園などとの連携も視野に入れつつ、戸定が丘緑地の文化的資産を市民と協働して活用し、若手芸術家などとの連携による芸術の創造なども図りながら、より複合的に魅力を高めていきます。</p> <p>●施策を推進していく上での課題 歴史文化の保存活用を推進していくためには、地域に愛着や誇りを認識する機会を増やしていく必要があります。市民、地域で活動する団体、企業と連携し、文化的価値を次世代へ伝えていくこと、周辺環境に配慮しながら、地域のアイデンティティーの活性化へつなげていくことが課題です。 特筆すべき松戸の強み 郷土の歴史や文化の保持、継承、郷土を知るための普及活動や情報発信ができる博物館と戸定歴史館がある！</p>
--

**松戸市博物館に
求められている役割
期待に応えるために変わります！**

**松戸ブランドの価値創出
松戸の歴史・文化を
誇らしく思える博物館**

松戸の歴史・文化を保存・継承し、価値発信し、郷土を学ぶことができる展示・普及活動を行う。松戸の3万年の歴史を楽しく学べる場。

**みんなが利用できる
情報基盤を構築
松戸の歴史・文化の
学術的なデジタル
アーカイブセンター**

学術的な情報やコンテンツを博物館が提供し構築。子どもも大人も学習に活用でき、松戸市のまちづくりにも活用できる。次代を育む文化・教育環境の創造の基盤として、市民が有効活用。文化財の保護・活用の推進。

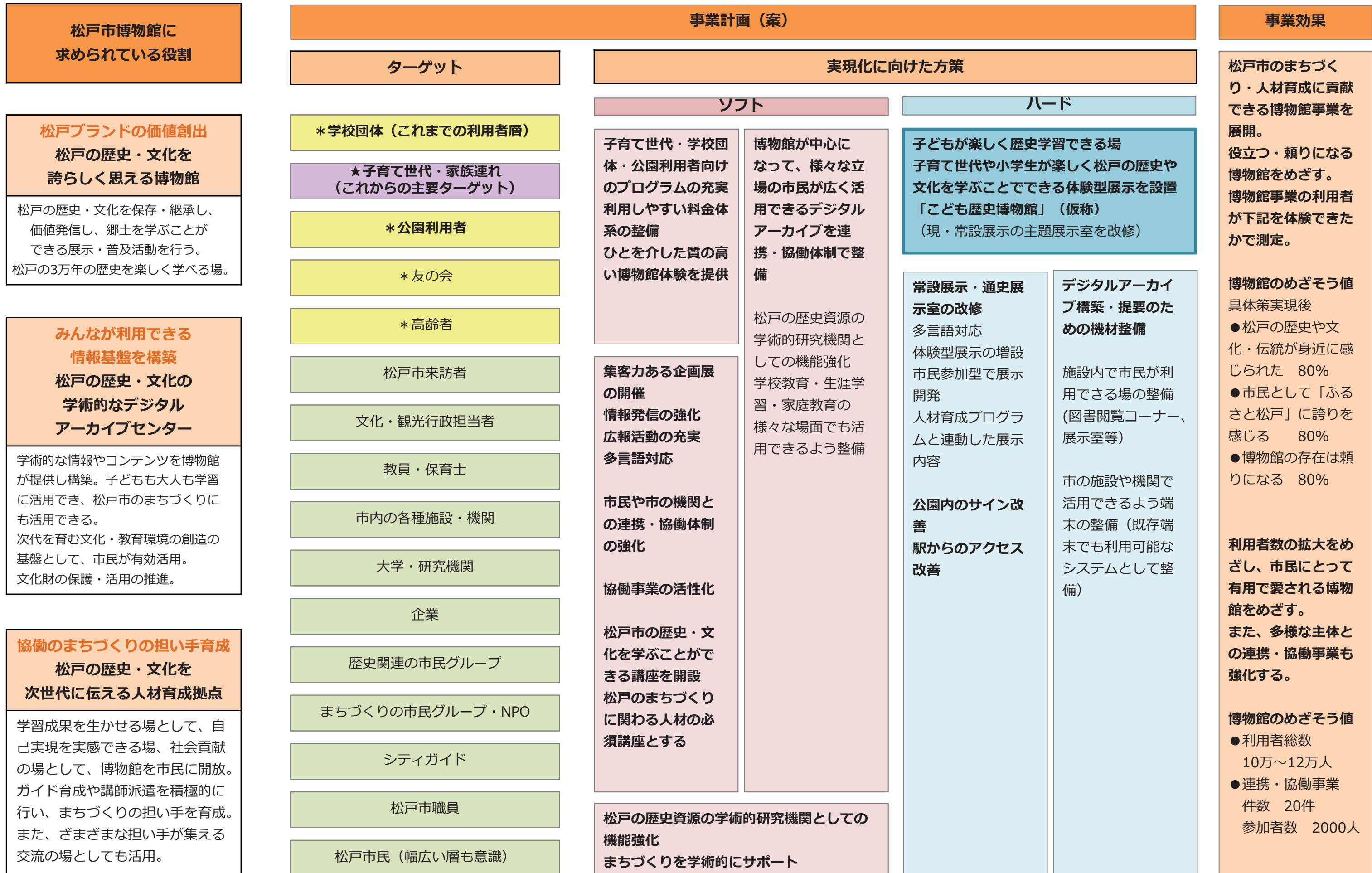
**協働のまちづくりの担い手育成
松戸の歴史・文化を
次世代に伝える人材育成拠点**

学習成果を生かせる場として、自己実現を実感できる場、社会貢献の場として、博物館を市民に開放。ガイド育成や講師派遣を積極的に行い、まちづくりの担い手を育成。また、様々な担い手が集える交流の場としても活用。

<p>松戸市社会教育計画 2015</p> <p>基本理念 自ら学び 学び合う、人と人がつながるまち ~学習成果を生かすことができるまち・松戸を目指して~</p> <p>社会教育の課題 4.社会教育施設の整備・充実 ④博物館：社会教育の中心施設として博物館は、市民が地域の歴史、文化、芸術により一層関心を高められる機会を提供できるよう、本市の文化資源を生かした博物館の企画展等を更に充実することが課題となっています。</p> <p>●基本目標1 市民の多様なニーズに応え、地域の課題や歴史・文化・伝統に気づく学習機会の充実 施策(4) 松戸の歴史・文化・伝統を学習する活動の推進：博物館展示事業、博物館学習支援事業、博物館歴史資産収集調査事業、市史編さん事業</p> <p>●基本目標2 市民を惹きつけ、広く行き渡る情報提供・相談 施策(1) 情報の周知、情報を得る方策への配慮：広報活動の推進、行事内容に即した対象者への情報発信の強化 施策(3) 学習相談体制の充実</p> <p>●基本目標3 学習者の学習成果を地域に生かす仕組みづくり 施策(2) 施設の整備及び施設連携や施設機能の活用方法の周知などによる利用促進：博物館管理運営事業（市民の教育、学術及び文化の発展に寄与するために設置した施設であり、利用者が安全で快適な環境で学習できるよう更なる利用の促進を図る） 施策(3) 学習意欲を喚起し、自己実現を実感できるステージへの誘導：博物館友の会支援・協働事業</p>

<p>協働のまちづくり条例 2007 → 松戸市協働推進計画 2012</p> <p>3つの基本方針 協働のまちづくりの担い手育成 多様な主体同士の協働を促進 施策の推進体制を整備</p>

<p>松戸市文化芸術振興基本方針 2014</p> <p>基本方針3 郷土の歴史・伝統文化遺産を次世代に引き継ぎます</p> <p>3-1 文化財の保護と活用：文化財マップ、文化財の説明板・標柱の設置・補修、市史の編纂</p> <p>3-2 伝統文化の伝承への支援：学校への学芸員の派遣、学芸員によるシティガイド等のスキルアップ事業の実施、デジタルアーカイブの構築事業の推進</p>
--



これまで行ってきた活動・さらにプログラムやコンテンツの充実

新規で取組

調査研究
収集・保存



松戸市の豊富な
歴史・文化資料の
収集・保存・調査研究



市史編纂

展示

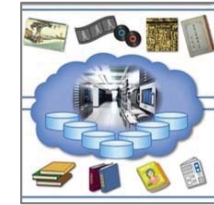


常設展示
原始から
現代までの
歴史展示



常設展示
ガイドツアー、解説員に
よる展示説明、ワーク
シートの整備による学習
支援

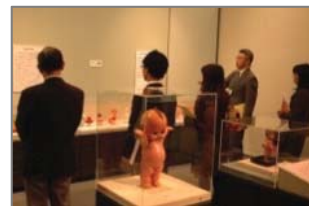
これまでの
蓄積を生かし
常設化！
新たな魅力
創出！



松戸市の歴史・文化に関するデジタルアー
カイブの整備
市民で幅広く活用



常設展示
こども歴史
博物館（仮称）
参加体験型展示



企画展示
多様なジャンル
これまでと異なる
アプローチにも
挑戦



企画展示室でも
体験プログラム
実施

企画展示
今後も継続
利用者拡大のためには開催本数を増やし、
集客力ある企画展の開催も必要

教育普及



プレイ
ルームでの
体験プログ
ラム



様々な
体験講座



こども
はくぶつかん
体験プログ
ラムとして実施
ソフト展開



教育普及活動のプログラムの拡充
幼児を連れた子育て世代や子どもだ
けのグループでも気軽に参加できる
メニューを市民参加型で開発



博物館実習や
職場体験等の
キャリア教育
支援



シアターで
の映像展示
や講演会の
開催



友の会活動



ボランティア
活動の場
歴史学習・人
材育成の場

野外展示



竪穴式住居で
の体験
工芸館や広場
での紙芝居等
のイベント



公園内の土
地を利用し
た米作りの
通年プログ
ラム



公園と連携した
個人利用・団体
利用向けのプロ
グラム開発

連携強化



近隣のホールや戸定歴史
館、その他の市の施設や
機関との連携強化、協働
事業の実施



大学・企業・市民グ
ループとの連携強化
協働事業の実施

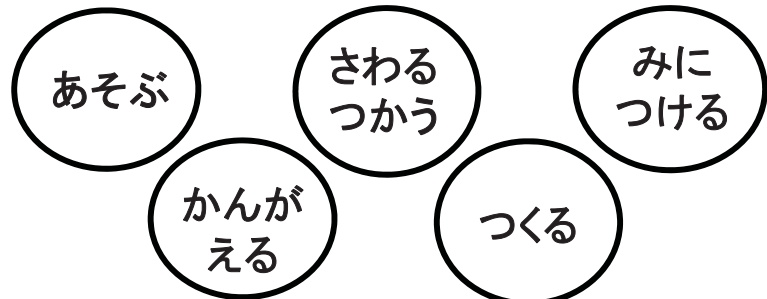
「こども歴史博物館」は・・・

- こどもや大人、あらゆる年齢の人たちが松戸や生活の歴史を楽しく学べる場所です。
- さまざまな体験などのメニューを通して、親子や祖父母など世代間の交流を育む場所として活用されることを目指しています。
- 4つのコーナー「やってみようコーナー」「たんけん隊コーナー」「しらべるコーナー」「みんなのコーナー」では、常設及び企画展示室の内容をいろいろな切り口で体験するアイテムが用意され、常に新たな歴史体験ができる広場とします。

☆やってみようコーナー

- ・考古学・歴史学・民俗学の分野などから生活史、文化史に関わるさまざまな体験プログラムを用意し、実際に資料(レプリカ・普及用資料)に触れたり、使ってみることで、歴史の楽しさを体感するコーナー。

体験プログラム 5つのテーマ



☆しらべるコーナー

- ・各コーナーで調べものや、展示をより深く知りたい際に役立つ情報を提供するコーナー。
- ・松戸の歴史を調査するための情報検索ツールとして写真や地図などを用意し、調査したデータを元に学び(研究)を深めるフィールドワークの基地となります。

☆たんけん隊コーナー

- ・常設展示室や企画展示室の展示に関するクイズや体験メニューを用意し、展示室を探検して、その解答をみつけるミッションに**チャレンジ**するコーナー。

- ・チャレンジした中で、興味を持ったテーマを**ふりかえり**、その意味を「しらべるコーナー」で考えます。

※たんけんツールの例 ・こどもクイズ
・こどもワークシート ・(竪穴住居探検手帳)

☆みんなのコーナー

- ・松戸市立博物館で行われる活動を紹介するコーナー。いわゆる掲示板(+作品展示)

- * 博物館アワード作品(イラスト・レプリカ作品など)
- * 小学生学芸員米づくりパネル
- * 中学生職場体験(ポスター)
- * ぬりえ など

常設展示室

企画展示室

野外展示

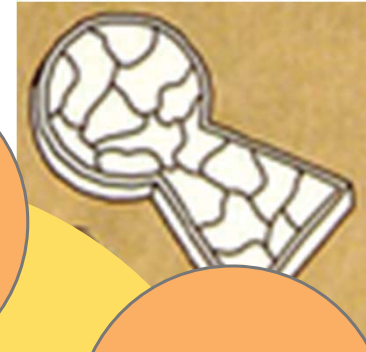
- ・竪穴住居
- ・水田(米)

チャレンジ

ふりかえり

学ぶを深める

松戸の歴史や文化財 (フィールドワーク)



あそぶ

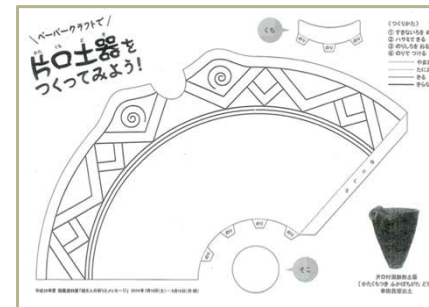
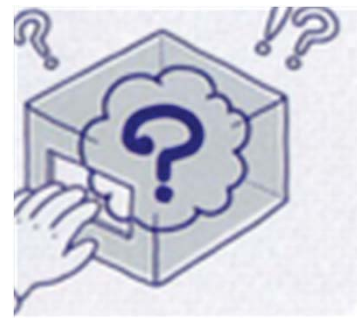
かんがえる

みにつける

歴史の楽しさを
体感・体験!

さわると
つかう

つくる



ぬりえ&しおりづくり
展示してある、土器などをモチーフ
にしたぬりえ、パウチ加工
してオリジナル
のしおりを
つくってみよう。



5.計画策定までの経過

(3)松戸市立博物館の常設展示の一部改修について（諮問）（平成29年10月）

松教生博第 180 号

平成 29 年 10 月 8 日

松戸市立博物館協議会

会長 濱島 正士 様

松戸市立博物館長 望月幹夫

松戸市立博物館の常設展示の一部改修について（諮問）

博物館法第 20 条第 2 項及び松戸市立博物館条例第 8 条の規定により、下記の事項について諮問します。

記

- (1) (仮称)「こども歴史博物館」の展示構想について
- (2) その他関連する事項について

なお、この諮問にかかる答申は、平成 31 年 3 月 31 日までに提出をお願いします。

参考資料

1 松戸市立博物館常設展示の現状と課題

詳細は「松戸市立博物館 今後の事業計画（案）」を参照

2 主要な問題意識と課題

(1) 博学連携事業の伸展により小学生を中心とする子どもたちの団体利用が増え、それに伴って親世代や祖父母世代の来館も増えつつあるが、親世代・祖父母世代からは、子どもや孫と一緒に体験したり、楽しんだりするような工夫がほしいとの要望が寄せられている。

(2) 現在の松戸市立博物館は、親子や祖父母と孫、または3世代による来館者のように、子ども世代とおとな世代とが一緒に歴史学習を楽しめるような体験型の展示環境にはなく、また常設展示室の学習レベルを「義務教育終了程度」に設定しているため、小学生が単独で歴史学習を行える環境にはなっていない。

3 解決への道筋（ハード面）

(1) プラン1「展示室の全面改修」

総合展示室・主題展示室等すべての展示内容を検討し直して、新たな展示として入れ替えることが望ましい。しかし、当館は1,000㎡規模の展示面積を持ち、全面改修には相応の時間も費用もかかることから、直ちに手をつけられる見込みはない。

(2) プラン2「展示室の一部改修」

現在の展示室全部ではなく、展示室の一部を対象にして、課題に即した改修を施すことは可能である。また、時間や費用の面からも現実的な解決策となる。

4 解決への道筋（ソフト面）

(1) これからのまちづくりのためには、松戸市で育つ「まつどっ子」たちが地元へ愛着を感じることを肝要である。そのためには正確な知識をもとに、地域の歴史を深く理解する必要があり、「歴史博物館」が果たすべき役割のひとつはそこにある。

(2) 親と子、祖父母と孫のように、展示をきっかけにして、子どもとおとなが松戸市の歴史について語り合い、相互に学習できるような環境（施設）づくりをめざす。これはすなわち、世代から世代への連環と、世代を超えたつながりや学習の機会を持ち得るような環境（施設）づくりをめざすことを意図する。

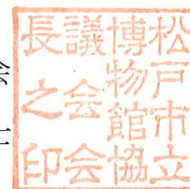
5. 計画策定までの経過

(4) 松戸市立博物館の常設展示の一部改修について（答申）（平成31年3月）

平成 31 年 3 月 31 日

松戸市立博物館長 望月幹夫 様

松戸市立博物館協議会
会 長 濱島 正士



松戸市立博物館の常設展示の一部改修について（答申）

— 「（仮称）こども歴史博物館構想」 —

平成 29 年 10 月 8 日付け松教生博第 180 号で諮問のありました標記について、次のとおり答申します。

目 次

はじめに（諮問に至る経緯）

第1章 松戸市立博物館のめざす姿

- 1 松戸市立博物館の現状と課題
- 2 松戸市立博物館に求められる役割とめざす博物館像
- 3 めざす博物館像に向けた具体的な方策

第2章 「（仮称）こども歴史博物館」の展示構想に向けて

- 1 目 的
- 2 めざす姿（基本的考え方）
- 3 学習指導要領改訂に合わせた「主体的・対話的で深い学び」の実現
- 4 「体験型学習」による質の高い理解
- 5 家庭教育・子育て支援のための施設としての役割
- 6 地域の教育力向上のためのツールとしての役割
- 7 「（仮称）こども歴史博物館」の設置実現に向けた基本方針及び基本計画の策定

資 料

- 1 博物館協議会での協議経過
- 2 各年度の協議会開催日と議題
- 3 松戸市立博物館協議会委員名簿（平成31年3月31日現在）

はじめに（諮問に至る経緯）

松戸市立博物館は平成5年4月29日の開館後25年が経過して、常設展示室（総合展示室、主題展示室）の展示機器や展示物等のハード面の老朽化が目立つようになり、また社会情勢の変化に伴うソフト面での新たな課題も明らかとなってきました。市民の期待に十分に答えるための博物館機能の充実が求められています。

このため、松戸市立博物館では内部研究会を立ち上げてリニューアルに向けた調査研究に努めてきましたが、平成29年10月8日の博物館協議会において、松戸市立博物館長から博物館協議会会長あてに諮問を受けました。

第1章 松戸市立博物館のめざす姿

1 松戸市立博物館の現状と課題

松戸市立博物館の現状認識と課題は以下のとおりと考えます。

- (1) 平成5年の開館からの数年間は、21世紀の森と広場、文化会館（森のホール21）との同時期開館により多くの市民に認知され、来館される施設となりましたが、それ以降に転入した市民には十分に認知されていない状況で、常設展示の来館者数が減少傾向にあります。
- (2) 松戸市立博物館の展示解説は、中学校卒業程度の理解度を想定した文章で作成されていますが、小学生以下の子どもや外国人来館者に対応できていません。
- (3) 多くの体験教室や講座を開催していますが、参加者が固定化していて、ファミリー層が休日を過ごす場所としての認知度も低い状況です。
- (4) 松戸市立博物館は、多くの縄文遺跡から出土した考古学資料や、本土寺過去帳などの中世史料、水戸街道や牧などに関する近世史料等を有する学術的な専門機関ですが、そうした認知がなされていないため、多くの市民に活用される施設となっていません。
- (5) 施設老朽化に対応した改修計画が必要となっています。また、最寄り駅（八柱駅、新八柱駅）からやや遠いためアクセスが悪く、専用の駐車場がないことも相まって、訪れにくい施設とイメージされています。

2 松戸市立博物館に求められる役割とめざす博物館像

市民の期待に応えるために、これからの松戸市立博物館には、次のような役割が求められています。

(1) 松戸ブランドの価値創出…市民が松戸の歴史や文化を誇らしく思えるための博物館として、本市の貴重な資源と財産であり続けること

- ① 松戸の歴史資源の学術的研究機関としての機能
- ② 集客力のある企画展の開催
- ③ こどもが楽しく歴史・文化を学ぶ参加・体験型博物館
- ④ こどもにもわかりやすい常設展示

(2) みんなが利用できる情報基盤の構築…松戸の歴史や文化の学術的価値を多くの市民に知ってもらい、活用してもらうこと

- ① こどももおとなも学習に活用でき、まちづくりに活用できるデジタルアーカイブ
- ② 情報発信を強化するとともに、利用しやすいアクセス手段の確保
- ③ 外国人の来館者に対応するため、多言語に対応した展示解説

(3) 協働のまちづくりの担い手としての人材育成拠点…歴史と文化を次世代に伝える人材を育成して、松戸に誇りと愛着をもつこどもたちを育てること

- ① 市民に向けて、まちづくりを学術的にサポートする体制づくり
- ② さまざまな団体が集える交流の場としての機能と人材育成の拠点

3 めざす博物館像に向けた具体的な方策

現在松戸市立博物館が抱えている課題を解決し、「めざす博物館像」の実現に向けて、以下のような具体的な方策が必要です。

(1) 安全のための総合展示室の大規模改修と、アクセスの改善を検討する

- ① 施設老朽化に対応するため、調査の結果耐震性において不適合であった吊り天井の改修工事や、修理不能となった照明器具の改修工事を実施する必要があります。
- ② 高齢者、身障者、こどもの団体利用のニーズに対応するために、来館者のアクセスの改善を検討する必要があります。
- ③ 総合公園内や総合公園駐車場からのアクセス表示をわかりやすく改善する必

要があります。

(2) 松戸市の歴史資源に関する学術的研究機関として、情報を整理し情報発信を強化する

①膨大な歴史資料等をデータ化して整理し、市民が活用できるようにデジタルアーカイブを構築することが必要です。

②より魅力のある企画展を開催し、企画展の内容を学術的な成果として残すことが必要です。

③松戸市立博物館が、市民にとっての歴史や文化の情報源として活用されるように、情報発信の強化を図ることが必要です。

(3) こどもや外国人にもわかりやすい展示内容と展示解説に改善する

①こども向けのプログラムを数多く開発するとともに、わかりやすい資料展示や展示解説の表示など、こどもたちが楽しく歴史学習をできる展示として改善することが必要です。

②外国人来館者のニーズに対応するため、多言語対応の展示解説や、音声データ等を利用した展示解説機能の充実が必要が必要です。

第2章 「(仮称) こども歴史博物館」の展示構想に向けて

1 目的

これからのまちづくりのためには、松戸市で育つ「まつどっ子」たちが地元に着を感じることが肝要です。そのためにはこどもたちが正確な知識をもとに、地域の歴史を深く理解する必要があり、松戸市立博物館が「歴史博物館」として果たすべき役割のひとつはそこにあると考えます。

これからの松戸市立博物館は今までよりも若い世代の市民をターゲットとして、親と子、祖父母と孫のように、展示をきっかけにしてこどもと家族や地域・団体のおとなたちとが松戸市の歴史について語り合い、相互に学習できるような環境（施設）をめざし、世代から世代への連環と、世代を超えたつながりや学習の機会を持ち得るような環境（施設）づくりをすることが求められています。

そのためには、常設展示の一部改修を念頭に置いて、まず松戸の次世代を担うこどもとその家族や、地域・団体を主要なターゲットにした「(仮称) こども歴史博

物館」を設置することを主眼とする「（仮称）こども歴史博物館構想」について答申します。

2 めざす姿（基本的考え方）

松戸市立博物館は、展示や活動に関して独自の特徴を持ちつつ運営されています。これを踏まえて、「（仮称）こども歴史博物館」では、松戸市立博物館ならではの松戸の歴史を発見できるような展示としての特徴を持たせることが必要です。

多くの市民に親しまれ、楽しく訪れやすい施設となるためには、あらゆる年齢層の市民が博物館に来てどのようなことを学んでいくかということを考えると同時に、歴史には興味関心の薄い市民にも、訪れてもらうための仕組み作りが必要です。

松戸市立博物館には、開館以来各分野（考古学・歴史学・民俗学）にわたる館長を含めて8名の学芸員が配置されており、幅広い視点での展覧会、企画事業、講演会等を開催し、松戸の歴史や文化に関する社会教育に貢献してきました。これからの「（仮称）こども歴史博物館」の運営にあたっては、直接その事業に従事する専門家として、より多くの学芸員の人数を確保することが必要です。

3 学習指導要領改訂に合わせた「主体的・対話的で深い学び」の実現

小学校では2020年度から、中学校では2021年度から2030年度までを見据えて学習指導要領が改訂されます。この改訂学習指導要領の目的である「主体的・対話的で深い学び」を取組むための施設として、博物館の果たす役割の重要性がますます高まると考えます。

また、改訂学習指導要領では、遺跡や文化財についての調査活動を取り入れて専門機関との連携を図ることが求められております。松戸市立博物館では、これまでも「博学連携プロジェクト」に取り組んできていますが、今後は市の文化財保護行政担当課・担当機関とともに小中学校との連携がより一層必要となります。

小学校の教員は松戸出身者とは限らず、松戸の歴史についての知識が浅いこともあるため、「（仮称）こども歴史博物館」では、こどもたちにどのように学んでほしいか、何を身につけてほしいかのコンセプトを明確に発信することが必要です。あわせて、小学校3年生用の副教材『のびゆく松戸市』と連携した企画に取り組むことも必要です。

4 「体験型学習」による質の高い理解

こどもが主体的に楽しく学習に向かい、質の高い歴史理解をするためには、そのきっかけとなる「体験型学習」による取り組みが必要です。博物館に収蔵されている多くの実物資料に触れるなどの実体験は、より深い理解につながります。

「(仮称) こども歴史博物館」に「やってみようコーナー」「しらべるコーナー」「探検隊コーナー」「みんなのコーナー」を設置することにより、子どもたちの主体的な学習活動がわかりやすく展開し、その活動が総合展示、野外展示(復元竪穴住居)、企画展示と連携して、より深い学びにつながるような仕組みとすることが必要です。また、子どもたちが昔の暮らし方や知恵、人々のつながりを想像することにより、松戸に住んでいることを誇りに思えるような仕組みとすることが必要です。

こどもの「やりたい」「触りたい」「聞きたい」「知りたい」という思いにこたえるためには、こども自身の取り組みに共感でき、子どもたちに松戸の歴史を伝えられる「おとな」が配置されていることが必要です。また、こどもは自分が認められたという経験により大きく成長しますので、「(仮称) こども歴史博物館」では、「こども探検隊バッジ」や「体験スタンプ修了証」「こども歴史博士認定証」などの、こどもがわくわくするような仕掛けを作ることも必要です。

5 家庭教育・子育て支援のための施設としての役割

松戸市立博物館には小学校、幼稚園、保育所等の団体利用に向けてのプログラムはありますが、家族の多世代利用、すなわち休日に家族が博物館を利用して一緒に学ぶ体験ができるようなプログラムは充実していません。「(仮称) こども歴史博物館」には、親子が共通の体験をすることにより、学びと遊びの体験を共有できるようなプログラムが必要です。

家庭教育や子育てについて不安に感じている保護者には、親子が一緒の時間を共有したり経験を共有したりすることが必要であり、松戸市立博物館はそれが実現できる施設であることを強く伝えていく必要があります。

6 地域の教育力向上のためのツールとしての役割

松戸市立博物館では、「松戸市立博物館友の会」との協働によりさまざまな事業

に取り組み、相互の発展と市民の松戸の歴史や文化の理解の推進にあたってきました。今後はその連携をさらに進めるとともに、自ら子どもたちに歴史を伝える活動をする市民を増やすための人材育成の仕組みを作ることが必要です。

松戸市には、子ども会、放課後児童クラブ、青少年会館、児童福祉館、こども館、青少年相談員をはじめとするこども・子育て支援団体や施設が多く存在しています。それぞれの団体や施設と連携して、多くの子どもたちに「（仮称）こども歴史博物館」を活用してもらうことが必要です。

7 「（仮称）こども歴史博物館」の設置実現に向けた基本方針及び基本計画の策定

松戸市立博物館協議会は、これまで常設展示改修についての協議を重ねてきました。今後は本答申の内容を次期「松戸市総合計画」や「松戸市教育委員会教育施策基本方針」に反映させるとともに、松戸市立博物館「（仮称）こども歴史博物館基本方針」及び「（仮称）こども歴史博物館基本計画」の策定を進めてください。

5.計画策定までの経過 (5)常設展示利用者調査

松戸市立博物館常設展示の利用者調査

はじめに

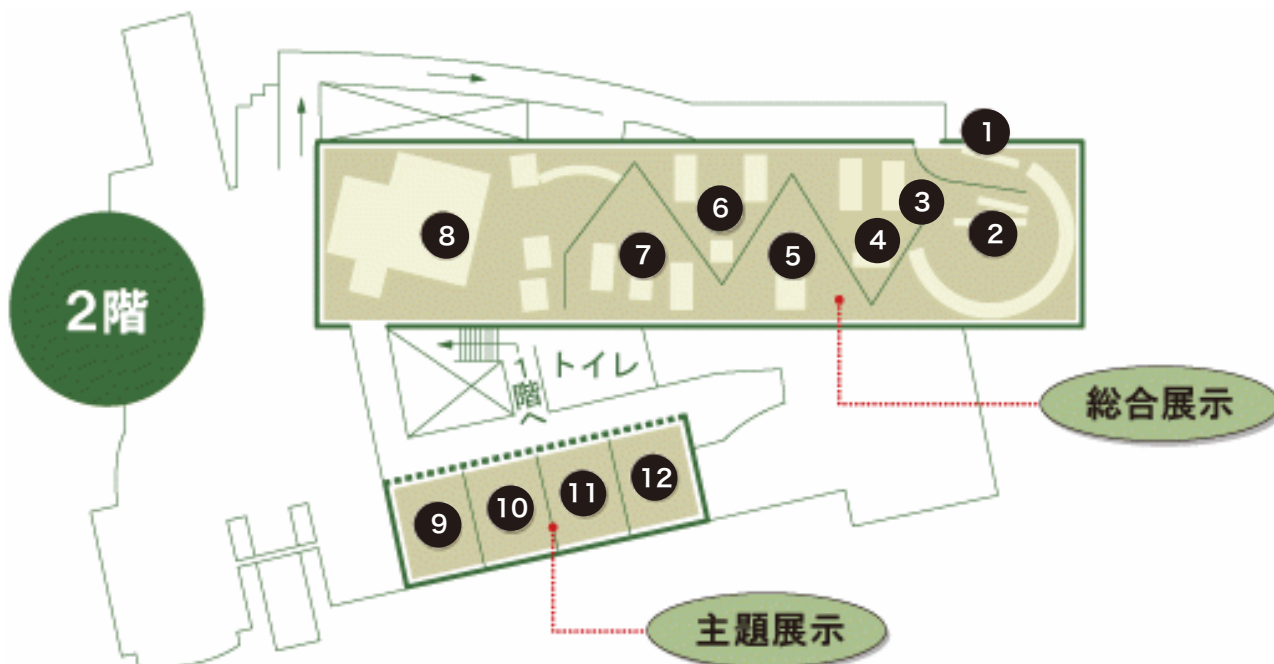
松戸市立博物館は常設展示のリニューアルを計画している。リニューアル基本計画策定に際しては、既存の常設展示を評価し、課題と強みを的確に把握しなければならない。また、評価は展示製作者側の認識や特定の利用者のみ意見に基づくものであってはならず、客観的なデータに依拠すべきである。そこで、展示利用者を対象に面接法による調査を実施することとした。本稿ではデータを提示した上で、分析結果に基づき常設展示の評価を試みる。

1. 資料と方法

1.1. 資料の概要

資料は松戸市立博物館の常設展示の観覧者を対象とした面接調査の結果である。調査対象期間に常設展示(図1)を観覧し終えた(可能な限り)全ての利用者に回答を依頼した¹⁾。ただし、家族連れ等グループで観覧した利用者についてはグループの代表1名に回答を依頼した。代表者の選定は回答者に委ねた。

博物館におけるアンケート調査で一般的な質問紙による留置法調査は本調査では採用しなかった。留置法調査の回収率は必ずしも高くなく、標本の無作為性が担保されない。利用者の一般的な傾向を定量的に把握するの



- | | |
|------------------|------------------|
| 1: 人類の登場 (旧石器) | 7: 町場と村 (近世) |
| 2: 狩りと採集のムラ (縄文) | 8: 都市へのあゆみ (近現代) |
| 3: 稲作社会の誕生①(弥生) | 9: 考古学と科学の眼 |
| 4: 稲作社会の誕生②(古墳) | 10: 虚無僧寺一月寺 |
| 5: 下総国のはじまり (古代) | 11: 二十世紀梨の誕生 |
| 6: 武士と民衆 (中世) | 12: 三匹獅子舞 |

図1 松戸市立博物館常設展示配置図

には不向きな方法である。

面接調査は松戸市立博物館学芸員（筆者）および同館会計年度任用職員が担当した。

回答はweb アンケートツール（Google Form）を使用し、利用者が所有する端末を利用して入力するか²⁾、聞き取り内容を調査員が入力した。

調査期間は2021年4月3日～同年5月16日である。ただし休館日は除く。なお、同年4月29日～5月16日には常設展示とは別に館蔵資料展が開催されていた。

調査期間中の常設展示観覧者は2171人であり、そのうち207人から回答を得た。したがって、回答率は約10%である。なお、回答者の同行者人数の総和は322人以上であり、同行者を含めれば529人以上を調査対象としたことになる。

無限母集団において95%信頼区間が±7%となる³⁾のに必要なサンプルサイズは196なので⁴⁾、これに近似した値といえよう。一般にアンケート調査では95%信頼区間が±5%となるようサンプルサイズが設定されるので、本調査は一般的な調査よりも精度が低い。今回は調査に要するリソースが限られていたため、限定的なサンプルサイズで分析を実施する。

面接調査の内容（回答フォーム）の一部を図2に示した⁵⁾。また、設問と回答方式の一覧を表1に示した。なお、設問9は選択肢設定にミスがあったため分析対象とはしない⁶⁾。また、本稿では選択式回答の設問を資料とした定量的分析を行い、自由記述式の設問については稿を改めて検討する。

1.2. 分析の方法

1.2.1. 利用者像の把握

調査結果のうち回答者（および同行者）の属性に関わる項目を単純集計し、利用者の傾向を把握する。

1.2.2. 既知の強み／課題の検証

松戸市立博物館ではリニューアル基本計画をめぐる議論を通じて常設展示の強み／課題とみなせる点がある程度把握している。強みと認識されていることとして、豊富な資料を活かした縄文時代の展示、常盤平団地の復元展示などがあげられる。課題と認識されていることとして、学術的に古くなっている内容があること、中学校卒業程度の知

図2 利用者調査の回答フォーム（一部）

識がある利用者を前提に構築されており、特に小学生以下の児童にとってはやや難易度が高いこと、展示室が暗いこと、常設展示に活用されていない所蔵資料がある／多いことなどがあげられる。これらは同館職員らの経験や過去に寄せられたクレーム等から把握された強み／課題である。分析結果が利用者一般の傾向としてこれらの認識を支持するか否かを検証する。

検証は以下3つの手法で実施する。

1: 単純集計

強み／課題と対応する項目について、単純集計によってサンプル総体における傾向を把握する。

2: クロス集計

強み／課題認識が特定の利用者群によって形成されている可能性を検証するため、強み／課題と対応する変数を他の変数とかけ合わせたクロス集計を行う。

相関関係が見出された場合は、ピアソンのカイ二乗検定を行い検証する。検定を行う場合有意水準は0.05とする。また、カイ二乗検定に不適な期待値分布となるデータの組み合わせの場合には、(2,2)型のクロス集計表に換算してフィッシャーの正確確率検定により代用する。

3: 決定木分析

強み／課題と対応する設問を目的変数

とした分類木を生成し、回答選択に影響を与えている要因を分析する。分析は統計ソフトRにおいて、CARTアルゴリズムに基づく分類木モデル生成パッケージであるrpartを使用し、分類木を生成する。決定木分析において重要度が高く位置づけられた説明変数については、個別に目的変数との相関関係を検証する。

1.2.3. 未知の強み／課題の抽出

既知の強み／課題と対応しない変数について分析し未知の強み／課題を抽出する。

ここでは、分布の背景を説明しにくい変数を目的変数として決定木分析を行い、特に重要度が高く位置づけられた説明変数を抽出する。当該説明変数と目的変数とのクロス集計を行い、明瞭な相関関係が見いだせるのであれば、その目的変数の分布に対する妥当な説明に寄与することが期待される。分析は既知の強み／課題の場合と同様の手順で実施する。

表1 質問項目一覧表

番号	質問内容	回答方式	備考
1	回答者の年齢	選択	
2	回答者の職業	選択	
3	回答者の居住地	選択	
4	回答者の居住地	自由記述	
5	来館目的	選択(複数可)	その他は自由記述
6	回答者／同行者の属性	選択(複数可)	その他は自由記述
7	の基本属性 交通手段	選択(複数可)	その他は自由記述
8	来館回数	選択	
9	前回来館時期	選択	
10	同行者の人数	選択	
11	同行者の続柄	自由記述	
12	同行者の属性	自由記述	
13	利用した展示	選択(複数可)	
14	興味をもった展示	選択(複数可)	
15	各展示の満足度	選択	展示ごとに選択
16	所要時間	選択	
17	資料数	選択	
18	解説のわかりやすさ	選択	
19	解説の難易度	選択	
20	文字の大きさ	選択	
21	順路のわかりやすさ	選択	
22	明るさ	選択	
23	総合的な満足度	選択	
24	印象に残っているもの	自由記述	
25	困ったこと	自由記述	
26	意見・感想・要望	自由記述	

2. 分析結果

2.1. 利用者像

2.1.1. 利用者の属性

図3・表2に設問1の集計結果に基づく回答者の年齢分布を示した。10代以下が少なく、20～40代が比較的高率を占める。これは、家族で来館したグループでは母親ないし父親が回答者となる場合が多かったことを反映した分布と考えられる。設問10～12では同行者の所属性について質問しており、回答から利用者グループの構成を復元することができる(表3)。1人での来館、2～4人の親子連れ、夫婦、友人同士2人などのグループ構成が主体となる。親子連れのグループが一定数認められることから、利用者総体の年齢分布では10代以下が相当の割合を占めることが予想される。

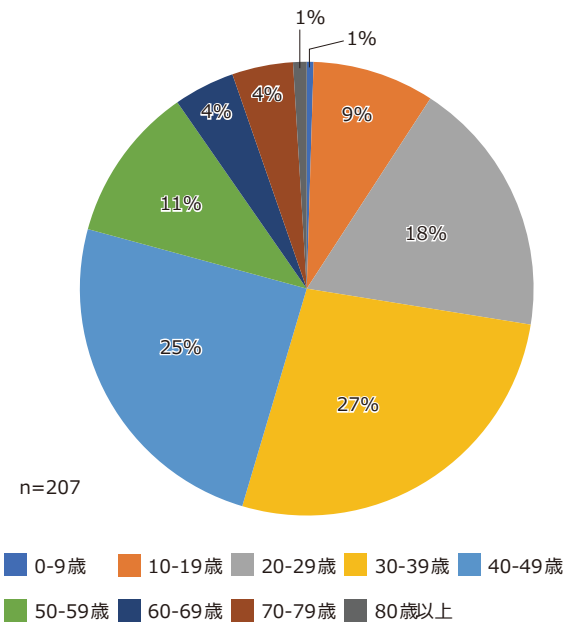


図3 利用者の年齢分布

図4・表4には設問2の集計結果に基づく回答者の職業

表2 回答者の年齢分布

年齢	度数(人)	割合(%)
0-9歳	1	0.5
10代	18	8.7
20代	38	18.4
30代	56	27.1
40代	51	24.6
50代	23	11.1
60代	9	4.3
70代	9	4.3
80歳以上	2	1.0
合計	207	100.0

表3 回答者グループの構成

グループの構成	人数別グループ数(組)					
	1人	2人	3	4	5	6人以上
同行者なし	44					
家族		19				
夫婦		19				
親と子		20	7			
両親と子			5	9		
3世代				2	1	1
祖父母と子			1	3		
兄弟姉妹		3	1			
その他		1	11	5	5	3
家族と友人					2	2
友人		22	3	4	3	2
友人と職場の仲間						1
職場の仲間			1			
その他		13				
合計	44	78	29	23	11	9
人数	44	156	87	92	55	54

構成を示した。上記のように親子連れのグループが一定数含まれることを考慮すると、利用者総体では小学生がより高率を占めることが予想される。

図5・表5には居住地について質問した設問3の集計結果を示した。回答者の4分の3以上が千葉県内から来館している。松戸市内からの来館者はおよそ4割を占める。調査期間のうち令和3年4月20日以降は松戸市を含む千葉県の一部に新型コロナウイルス感染症拡大に伴うまん延等防止措置が、同年4月25日以降は隣接する東京都に緊急事態宣言が発令されている。外的要因により県外からの来館者が減少し、千葉県内からの来館者が優占する結果となった可能性を考慮しなければならない。

表6には来館目的をたずねた設問5の集計結果を示した。複数回答を許した設問であり、回答数の合計は回答者数と一致せず、回答率の合計は必ずしも100%とはならない。来館目的として常設展示をあげた回答者は7割を超えており、主要な来館目的といえよう。なお、館蔵資料展の有無により来館目的が変化することが予想されるが、いずれの来館目的においても回答率に顕著な変化はなく、常設展示についてはむしろ回答率が上昇している。なお、館蔵資料展開開始前に利用目的として館蔵資料展をあげた回答者が一定数認められる。誤回答ないし資料展開催期間を誤認していた可能性が考

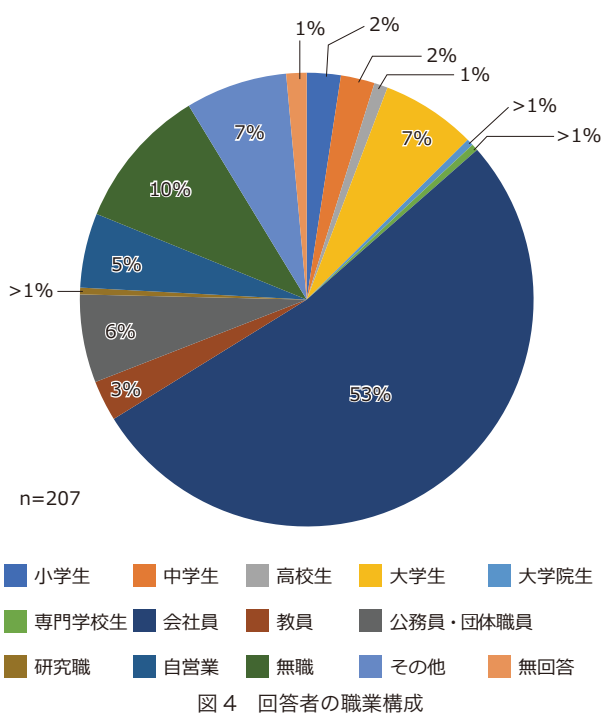


表4 回答者の職業構成

職業	度数(人)	割合(%)
小学生	5	2.4
中学生	5	2.4
高校生	2	1.0
大学生	14	6.8
大学院生	1	0.5
専門学校生	1	0.5
会社員	109	52.7
教員	6	2.9
公務員・団体職員(教員以外)	13	6.3
研究職(人文系)	1	0.5
自営業	11	5.3
無職	21	10.1
その他	15	7.2
無回答	3	1.4
合計	207	100.0

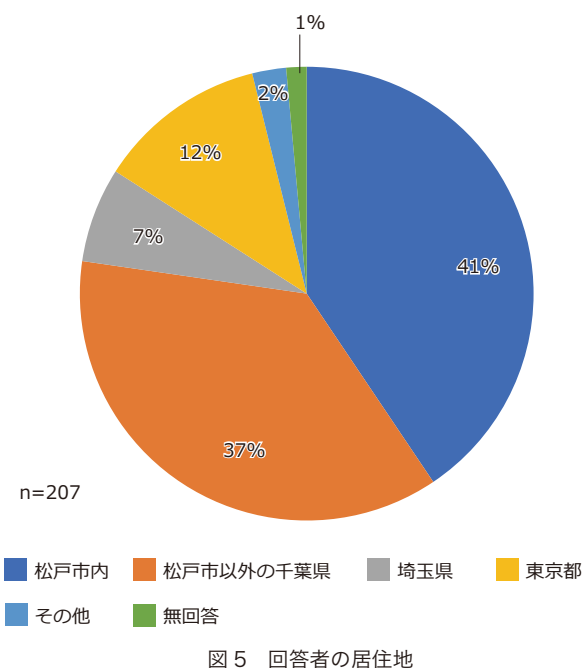


表5 回答者の居住地

住所	度数(人)	割合(%)
松戸市内	84	40.6
松戸市以外の千葉県	76	36.7
埼玉県	14	6.8
東京都	25	12.1
その他	5	2.4
無回答	3	1.4
合計	207	100.0

えられる。

表7には来館時に利用した交通手段に関する設問7の集計結果を示した。複数回答を許した設問であり、回答数の合計は回答者数と一致せず、利用率の合計は必ずしも100%とはならない。最も利用率が高いのは自動車である。松戸市立博物館には専用の駐車場がないため、隣接する21世紀の森と広場の有料駐車場を利用していると考えられる。次いで利用率が高いのは電車、徒歩である。最寄り駅である八柱／新八柱駅から徒歩で来館している利用者が多いと考えられる。

図6・表8には来館回数をたずねた設問8の集計結果を示した。6割以上の回答者がはじめての来館と回答している。一方で、複数回来館している場合に限れば3～5回目という回答者が最も多い。

2.1.2. 展示に関する認識の傾向

各展示の利用状況

表9に各展示の利用度について質問した設問13の集計結果を示した。回答者には見た展示を全て選択し、素通りしたもの、ながめただけのものは選択しないよう指示した。表9に示した利用率は、全回答者の数207に対する当該展示を「見た」とした回答者の割合である。なお、「考古学と科学の眼」を「見た」とする回答者が一定数いるが、

表6 回答者の来館目的 回答率は回答者数に対する回答数の割合 回答者（n=207）の内訳は資料展前64、資料展中143

目的（複数回答可）	回答数	回答率 (%)	資料展前の回答数	資料展前の回答率 (%)	資料展中の回答数	資料展中の回答率 (%)
常設展示を見るため	147	71.0	41	64.1	107	74.8
企画展・資料展を見るため	76	36.7	13	20.3	63	44.1
体験教室・講座・講演会に参加するため	2	1.0	1	1.6	1	0.7
復元竪穴住居を見るため	33	15.9	10	15.6	23	16.1
ブレイルルーム、図書閲覧コーナーを利用するため	8	3.9	3	4.7	5	3.5
たまたま通りかかった	44	21.3	14	21.9	30	21.0
喫茶コーナーを利用するため	1	0.5	0	0.0	1	0.7
その他	10	4.8	6	9.4	4	2.8

表7 来館時に利用した交通手段

交通手段（複数回答可）	回答数	利用率 (%)
自動車	99	47.8
電車	62	30.0
バス	26	12.6
自転車	13	6.3
バイク	3	1.4
徒歩	41	19.8
その他	0	0.0

表8 回答者の来館回数

来館回数	度数 (人)	割合 (%)
はじめて	136	65.7
2回目	20	9.7
3～5回目	30	14.5
6回以上	21	10.1
合計	207	100.0

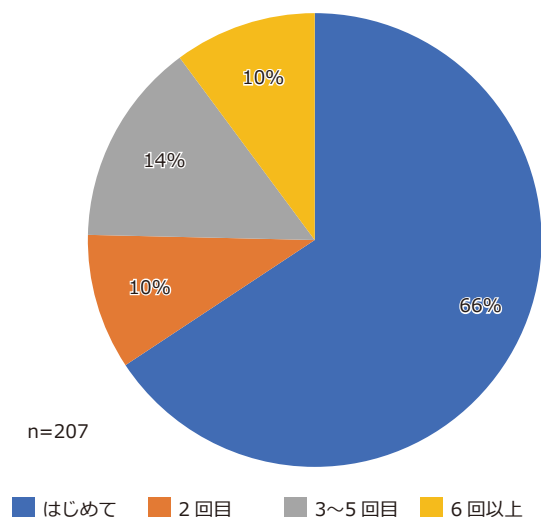


図6 回答者の来館回数

調査期間中当該展示は閉鎖しており、誤回答が含まれる可能性が高い。しかし、全てを誤回答とするには回答者が多く、実際にみた展示の内容と選択肢（展示名称）が一致していなかった可能性を考慮しなければならない。

最も利用されているのは近現代の展示である。常盤平団地の復元展示が高い利用率に寄与しているものと考えられる。近現代以外でも総合展示室内の展示は利用者が多い。一方、主題展示室の展示は相対的に利用者が少ない。最も利用率が低い三匹獅子舞は回答者の半数程度の利用にとどまる。

各展示に対する興味・関心

表 10 には興味・関心をもった展示を選択する設問 14 の集計結果を示した。回答者は設問 13 で「見た」と回答した展示のうち、特に興味・関心をもった展示を選択した。表 10 に示した回答率は、ある展示について設問 13 でみたとした回答者の数に対する、当該展示に興味・関心をもったとした回答者の割合である。

興味・関心をもった割合が最も多いのは近現代の展示である。その他、縄文、中世、近世などは相対的に多い。なお、利用率の低い主題展示室の展示では、興味・関心をもった回答者の割合は総合展示室と比較して顕著な差は認められない。

各展示の満足度

図 7・表 11 には各展示に対する満足度をたずねた設問 15 の集計結果を示した。設問 13 で選択した、利用した展示について回答するよう指示した。しかし、各展示の満足度の回答数の合計は当該展示をみた回答者の数と必ずしも一致しない。したがって、一定数の誤回答を含むと考えられる。「満足」と答えた回答者の割合が最も大きいのは近現代の展示で、75% を超える。他の展示では概ね 40～55% が「満足」と回答している。いずれの展示においても「満足」または「やや満足」と答えた回答者の割合は高率を占めている。

常設展示の利用時間

図 8 には利用に要した時間について質問した設問 16 の集計結果を示した。利用時間に特定の傾向を看取することは難しい。

常設展示の資料数

図 9 には資料数について質問した設問 17 の集計結果を示した。回答者の半数以上が「少ない」または「やや少ない」と回答している。一方で、「やや多い」とした回答者も 3 割にのぼる。

表 9 各展示の利用度

展示	回答数	利用率 (%)
旧石器	179	86.5
縄文	181	87.4
弥生	160	77.3
古墳	158	76.3
古代	160	77.3
中世	167	80.7
近世	171	82.6
近現代	184	88.9
考古学と科学の眼	86	41.5
虚無僧	150	72.5
二十世紀梨	141	68.1
三匹獅子舞	104	50.2

表 10 各展示に対する興味・関心

展示	回答数	回答率 (%)
旧石器	42	23.5
縄文	66	36.5
弥生	36	22.5
古墳	39	24.7
古代	33	20.6
中世	64	38.3
近世	56	32.7
近現代	142	77.2
考古学と科学の眼	9	10.5
虚無僧	36	24.0
二十世紀梨	31	22.0
三匹獅子舞	25	24.0

解説のわかりやすさ

図 10 には解説のわかりやすさをたずねた設問 18 の集計結果を示した。およそ半数が「わかりやすい」と回答し、「ややわかりやすい」と合わせると 4 分の 3 を超える。

解説の難易度

図 11 には解説の難易度をたずねた設問 19 の集計結果を示した。全体の 6 割が「ちょうどよい」と回答している。その他、「やや難しい」とした回答者がやや多い。

表 11 各展示の満足度

展示	満足	やや満足	やや不満	不満	判断不能	合計
旧石器	78	99	6	1	2	186
縄文	91	93	7	1	2	194
弥生	69	96	9	1	1	176
古墳	73	89	10	1	1	174
古代	82	75	11	1	4	173
中世	91	71	12	1	3	178
近世	100	68	7	1	3	179
近現代	144	35	4	2	1	186
考古学と科学の眼	45	40	11	2	10	108
虚無僧	67	61	20	2	4	154
二十世紀梨	71	62	12	3	6	154
三匹獅子舞	52	50	17	4	9	132

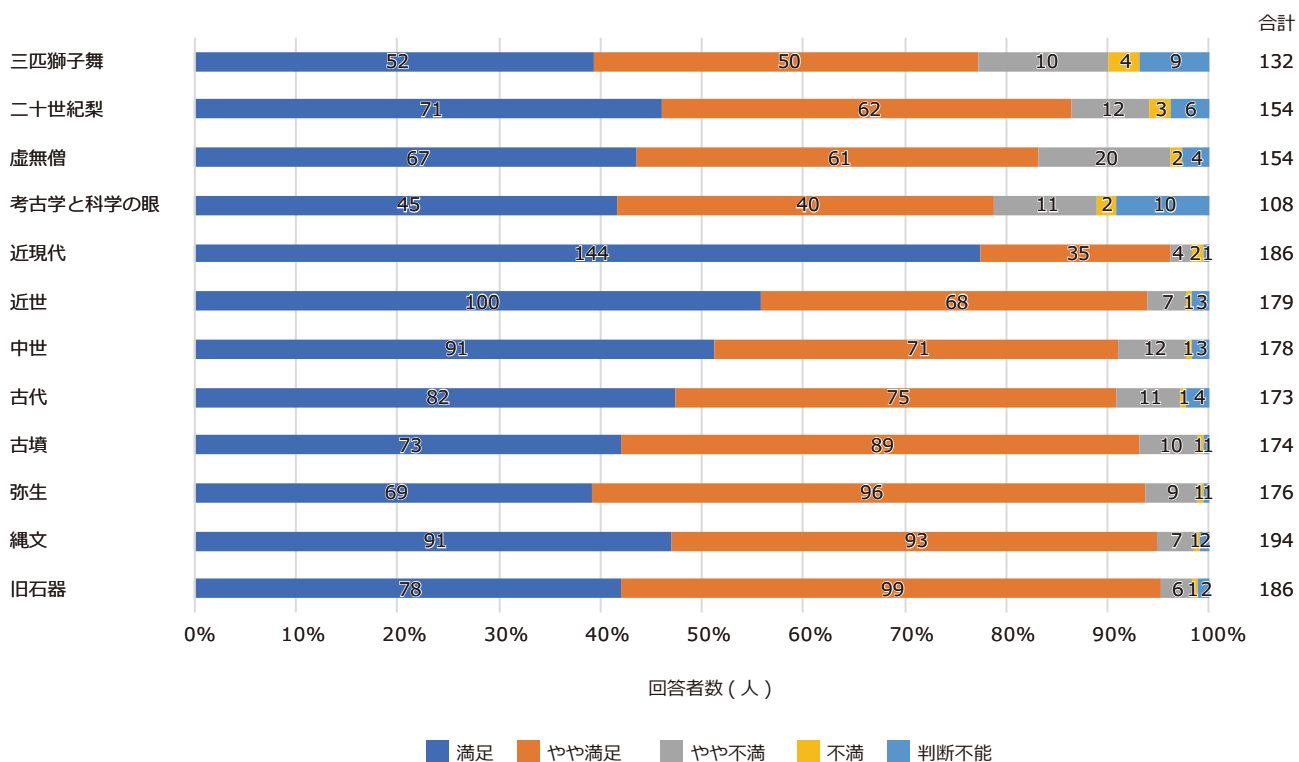


図 7 各展示の満足度

文字の大きさ

図 12 にはパネル等の文字の大きさについて質問した設問 20 の集計結果を示した。「ちょうどよい」とした回答者が 4 分の 3 を占める。

展示の順路

図 13 には展示の順路について質問した設問 21 の集計結果を示した。常設展示のうち総合展示室は時代順に展示物が配置されており、時代順に観覧することを想定している。しかし順路は明示しておらず、壁に沿ってジグザグに進むことで時代順に観覧することができるようになっている。したがって、ジグザグに進まず直進した場合にはいくつかの時代をスキップしてしまうことになる。直進した上で出口側から折り返す観覧者が一定数存在するとの事前情報を得ており⁷⁾、設問 21 はその実態を把握するための質問項目である。集計の結果、回答者のおよそ 3 分の 2 が「わ

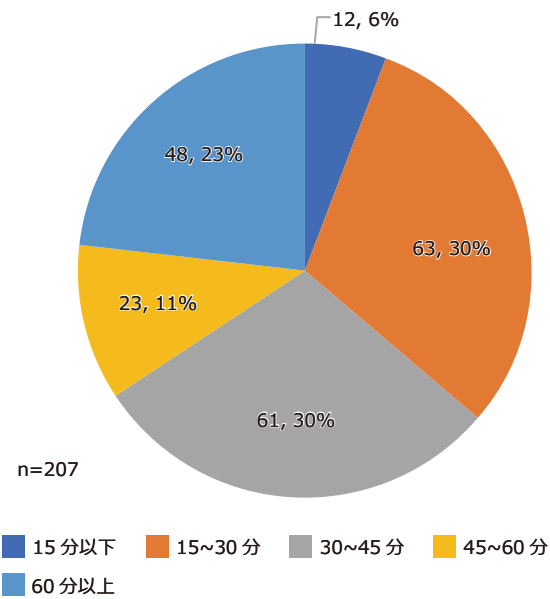


図 8 常設展示の利用時間

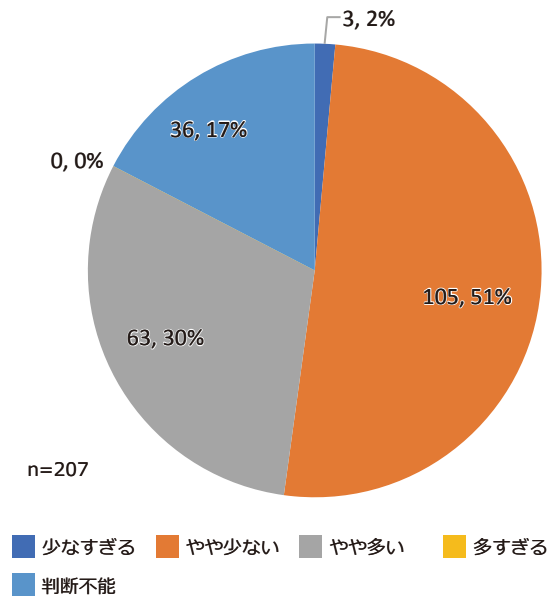


図 9 資料数に関する認識

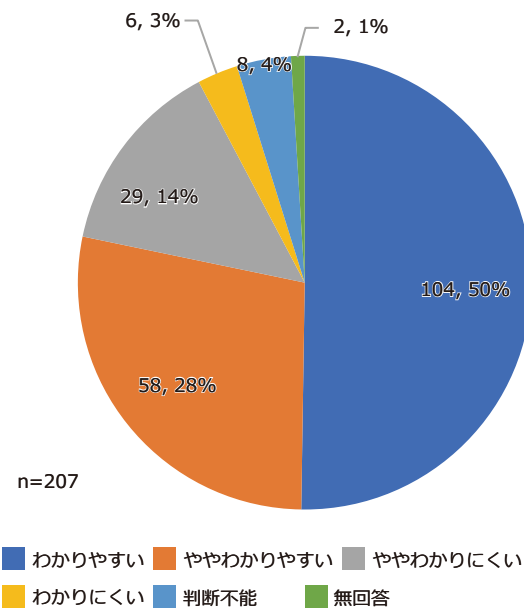


図 10 解説にわかりやすさに関する認識

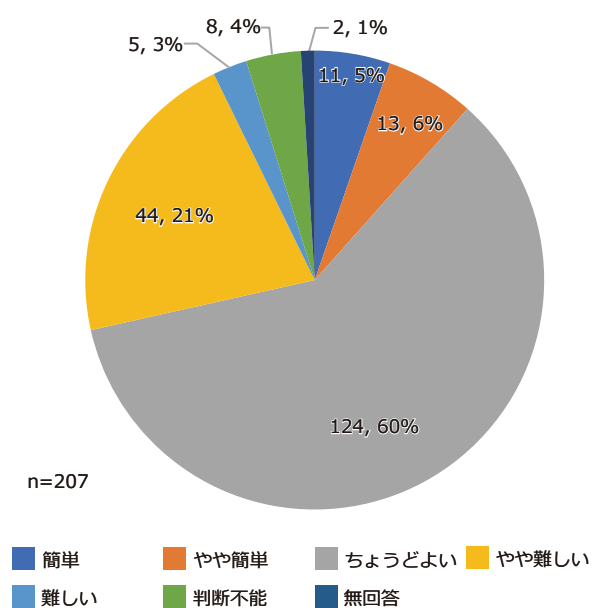


図 11 解説の難易度に関する認識

かりやすかった」としている一方で、「少し迷った」または「とても迷った」とした回答者は3割にのぼる。

展示室の明るさ

図14には展示室の明るさについて質問した設問22の集計結果を示した。回答者のおよそ3分の1が「暗い」と回答した。「やや明るい」とした回答者は6割弱にのぼる。なお、設問22では「やや暗い」という選択肢を設定しなかった。常設展示は演出上照明を暗めに設定しているため、「やや暗い」の選択肢があれば回答が集中すると予想される。「やや暗い」では、その暗さが演出として妥当な範疇なのか、問題のある暗さなのかを判断するデータとしては扱いにくい。集計の結果、「暗い」とした回答者がおよそ3割、「やや明るい」とした回答者が6割弱であった。

総合的な満足度

図15には常設展示全体の総合的な満足度について質問した設問23の集計結果を示した。「やや満足」とした回答

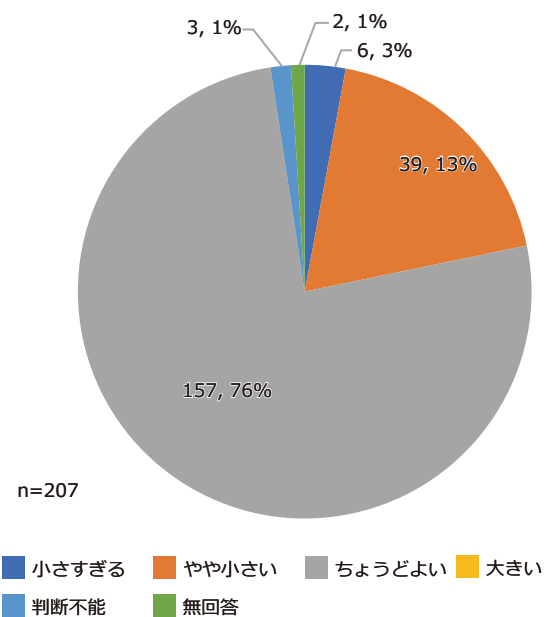


図12 文字の大きさについての認識

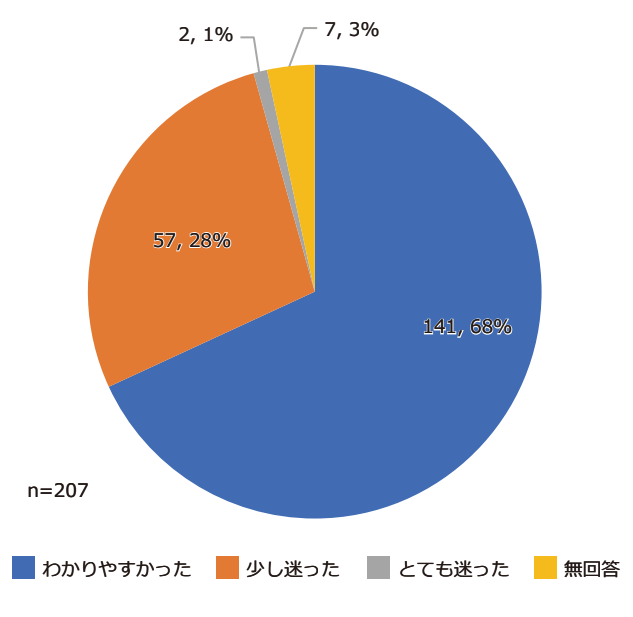


図13 順路のわかりやすさについての認識

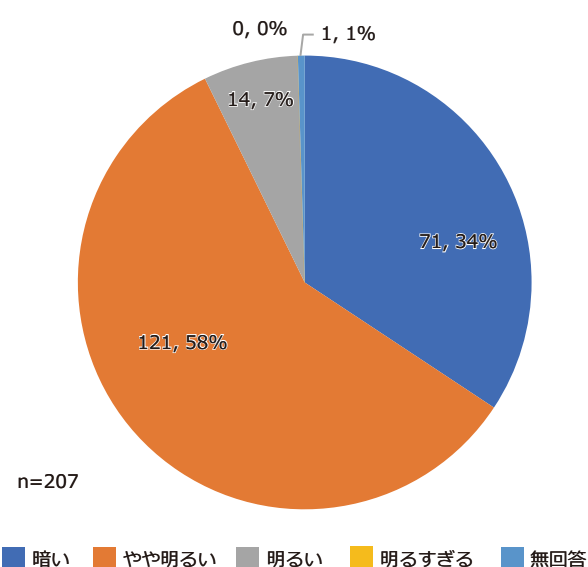


図14 展示室の明るさについての認識

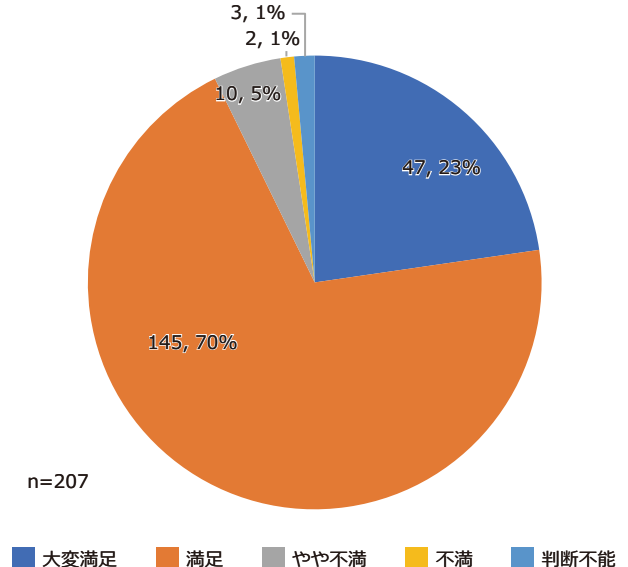


図15 総合的な満足度

者が最も多く7割を占める。次いで「満足」とした回答者が2割ほどである。

2.2. 既知の強み／課題の検証

2.2.1. 既知の強み 1: 常盤平団地復元展示の人気

近現代展示では常盤平団地の一室を復元しており、高度経済成長期の生活の様相を知ることのできる展示として人気を博している。常設展示リニューアルをめぐる議論においても、常設展示の強みであると認識され、維持していくべき展示と考えられている。ここでは、利用者調査の結果に常盤平団地復元展示の人気の実態を定量的に把握するとともに、その要因を検討する。

常盤平団地復元展示を中核とする近現代展示は常設展示の中で最も利用されており（表9）、満足度も突出して高い（図7）。常盤平団地復元展示に人気があるという認識は利用者調査の結果により裏付けられたといえる。

それでは、常盤平団地復元展示利用していない、あるいは不満としたのはどのような利用者だろうか。利用の有無が特定の属性等と相関するのであれば、リニューアル時に修正・拡充すべき点を把握する上で重要な情報となる。

例えば、年齢層によって興味・関心のあり方が異なる可能性が想定される。高度経済成長期の生活は一定以上の年齢層では「懐かしいもの」でありうるが、若年層にとっては「遠い昔」かもしれない。そこで、年齢と近現代展示利用の有無についてクロス集計を行った（表12）。データ数に差があるものの、60代以上の年齢層では相対的に利用率が低い。50代以下と60代以上とに区分してクロス集計すると表13のようになる。表13はカイ二乗検定を行うには期待値が不十分なので、フィッシャーの正確確率検定を行ったところp値は3.623*10⁻⁴となり、有意な相関関係が認められる。したがって、60代以上の年齢層では近現代展示の利用は相対的に低調だといえる。

また、人気の展示とはいえ、複数回来館しているリピーターの場合には利用率が低下することが予想される。表14は来館回数と近現代展示利用とのクロス集計表である。来館回数が増えるほど、利用率が低下している。表14は期待確率が著しく低い部分があり、カイ二乗検定を行うには不適な行列である。そこで、来館回数をはじめて／2回以上に区分して(2,2)型の行列となるクロス集計表に換算してから（表15）、カイ二乗検定を行ったところp値は0.09249となり、有意な相関関係があるとは言えない。6回以上来館している回答者でも4分の3が近現代展示を利用しており、リピーターであっても相当の頻度で利用している。

近現代展示の利用率は他の展示の利用率と関係があるだろうか。近現代展示の利用率が特に高いことから、近現代展示を目的とする来館者が他の展示を利用していない可能性を想定することができる。そこで、近現代展示利用の有無を他の展示の利用の有無とかけ合わせたクロス集計を

表 12 年齢と近現代展示利用の有無のクロス集計表 (1)

年齢	近現代展示の利用 (人)		総計	利用率 (%)
	見ていない	見た		
0-9	0	1	1	100.0
10-19	1	17	18	94.4
20-29	2	36	38	94.7
30-39	3	53	56	94.6
40-49	9	42	51	82.4
50-59	0	23	23	100.0
60-69	3	6	9	66.7
70-79	4	5	9	55.6
80-	1	1	2	50.0
総計	23	184	207	88.9

表 13 年齢と近現代展示利用の有無のクロス集計表 (2)

年齢	近現代展示の利用 (人)		総計	利用率 (%)
	見ていない	見た		
0-59	15	172	187	92.0
60-	8	12	20	60.4
総計	23	184	207	88.9

表 14 来館回数と近現代展示利用の有無のクロス集計表 (1)

来館回数	近現代展示の利用 (人)		総計	利用率 (%)
	見ていない	見た		
はじめて	11	125	136	91.9
2回目	2	18	20	90.0
3-5回目	5	25	30	83.3
6回以上	5	16	21	76.2
総計	23	184	207	88.9

表 15 来館回数と近現代展示利用の有無のクロス集計表 (2)

来館回数	近現代展示の利用 (人)		総計	利用率 (%)
	見ていない	見た		
はじめて	11	125	136	91.9
2回以上	12	59	71	83.1
総計	23	184	207	88.9

表 16 旧石器時代展示と近現代展示利用の有無のクロス集計表

旧石器	近現代展示の利用（人）		総計	利用率 (%)
	見ていない	見た		
見ていない	8	20	28	71.4
見た	15	164	179	91.6
総計	23	184	207	88.9

表 17 縄文時代展示と近現代展示利用の有無のクロス集計表

縄文	近現代展示の利用（人）		総計	利用率 (%)
	見ていない	見た		
見ていない	8	18	26	69.2
見た	15	166	181	91.7
総計	23	184	207	88.9

表 18 弥生時代展示と近現代展示利用の有無のクロス集計表

弥生	近現代展示の利用（人）		総計	利用率 (%)
	見ていない	見た		
見ていない	15	32	47	68.1
見た	8	152	160	95.0
総計	23	184	207	88.9

表 19 古墳時代展示と近現代展示利用の有無のクロス集計表

弥生	近現代展示の利用（人）		総計	利用率 (%)
	見ていない	見た		
見ていない	14	35	49	71.4
見た	9	149	158	94.3
総計	23	184	207	88.9

表 20 古代展示と近現代展示利用の有無のクロス集計表

弥生	近現代展示の利用（人）		総計	利用率 (%)
	見ていない	見た		
見ていない	15	32	47	68.1
見た	8	152	160	95.0
総計	23	184	207	88.9

表 21 古代展示と近現代展示利用の有無のクロス集計表

弥生	近現代展示の利用（人）		総計	利用率 (%)
	見ていない	見た		
見ていない	15	32	47	68.1
見た	8	152	160	95.0
総計	23	184	207	88.9

表 22 中世展示と近現代展示利用の有無のクロス集計表

弥生	近現代展示の利用（人）		総計	利用率 (%)
	見ていない	見た		
見ていない	13	27	40	67.5
見た	10	157	167	94.0
総計	23	184	207	88.9

表 23 近世展示と近現代展示利用の有無のクロス集計表

弥生	近現代展示の利用（人）		総計	利用率 (%)
	見ていない	見た		
見ていない	16	20	36	55.6
見た	7	164	171	95.9
総計	23	184	207	88.9

表 24 虚無僧展示と近現代展示利用の有無のクロス集計表

弥生	近現代展示の利用（人）		総計	利用率 (%)
	見ていない	見た		
見ていない	12	45	57	78.9
見た	11	139	150	92.7
総計	23	184	207	88.9

表 25 二十世紀梨展示と近現代展示利用の有無のクロス集計表

弥生	近現代展示の利用（人）		総計	利用率 (%)
	見ていない	見た		
見ていない	14	52	66	78.8
見た	9	132	141	93.6
総計	23	184	207	88.9

表 26 三匹獅子舞展示と近現代展示利用の有無のクロス集計表

弥生	近現代展示の利用（人）		総計	利用率 (%)
	見ていない	見た		
見ていない	15	88	103	85.4
見た	8	96	104	92.3
総計	23	184	207	88.9

行った (表 16 ~ 26)。いずれの組み合わせにおいても当該展示をみていない場合には近現代展示の利用率は相対的に低い。それぞれの組み合わせでフィッシャーの正確確率検定を行ったところ⁸⁾、三匹獅子舞以外との組み合わせでは相関関係を認めることができる (表 27)。三匹獅子舞は最も利用率の低い展示であり (表 9)、他の要因との交絡が疑われる。

したがって、近現代展示を目的とした利用者が他の展示をみていないとはいえない。少なくとも常盤平団地復元展示に関しては、「特定の展示に人気集中し、他の展示が利用されない」という状況を認めることはできない。

2.2.2. 既知の課題 1: 展示室の暗さ

過去に常設展示室が暗いという意見が寄せられており、リニューアル時にはより明るくすることが検討されていた。

そこで、暗さが利用者にとってどの程度問題視されているのかを把握するために設問 22 を設定し調査を行った。その結果、上記の通り「暗い」とした回答者はおよそ 3 分の 1 を占めた (図 14)。上記の通り、「やや暗い」という選択肢を排除した上での結果であり、「暗い」を選択した回答者は暗さを明確に問題視していると理解してよいだろう。筆者の所感としては当初想定していたほど問題視されておらず、限定的な利用者に意見により展示室が暗いという問題意識が形成されていた可能性がある。それでは、暗さを問題視しているのはどのような利用者であろうか。

まず、明るさに対する認識がどのような変数と相関しているのかを探るため、全ての選択式質問項目を説明変数とする決定木分析を行った。その結果、図 16 の分類木が生成された。最も不純度が低くなる説明変数は解説のわかりやすさである。明るさに対する認識と解説のわかりやすさとでクロス集計を行い、結果を表 28・図 17 に示した。解説が「わかりにくい」または「ややわかりにくい」を選択した群では「暗い」の割合が大きい。表 28 のクロス集計表はカイ二乗検定を行うには不適なデータなので、解説のわかりやすさを「わかりにくい」「ややわかりにくい」とそれ以外とに区分し、明るさに対する認識を「暗い」とそれ以外に区分して再集計した上で (表 29)、カイ二乗検

表 27 近現代展示利用の有無と他の展示利用との相関関係

展示	フィッシャーの正確確率検定における p 値	近現代展示利用との相関関係
旧石器	0.00497	あり
縄文	0.00290	あり
弥生	3.71e-06	あり
古墳	5.21e-05	あり
古代	3.71e-06	あり
中世	2.40e-05	あり
近世	2.86e-09	あり
虚無僧	0.01114	あり
二十世紀梨	0.00338	あり
三匹獅子舞	0.12740	あるとはいえない

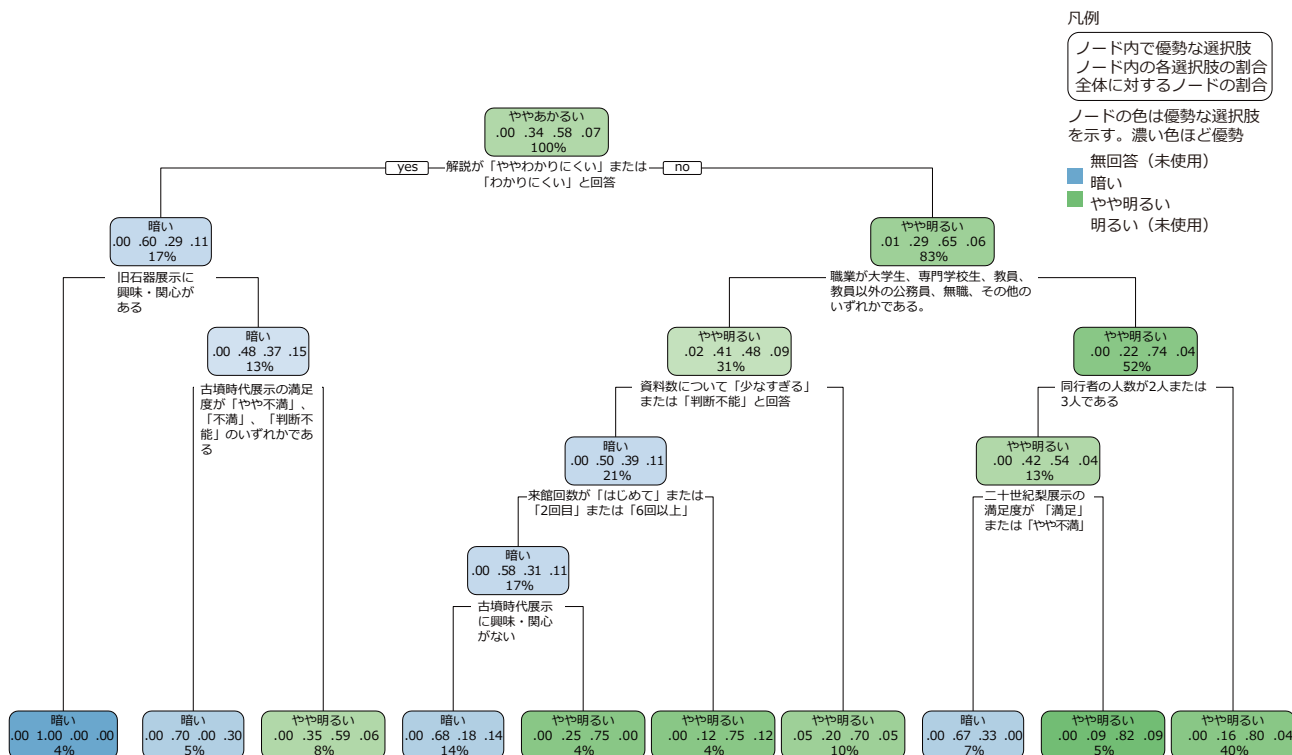


図 16 明るさに対する認識を目的変数とした分類木

表 28 明るさに対する認識と解説のわかりやすさのクロス集計表 (1)

解説	明るさに対する認識 (人)				総計
	暗い	やや明るい	明るい	無回答	
わかりやすい	30	66	7	1	104
ややわかりやすい	19	36	3	0	58
ややわかりにくい	17	9	3	0	29
わかりにくい	4	1	1	0	6
判断不能	1	7	0	0	8
無回答	0	2	0	0	2
総計	71	121	14	1	207

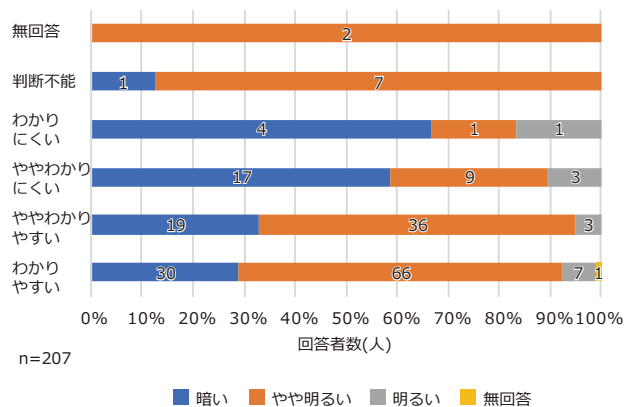


図 17 解説のわかりやすさと明るさに対する認識との関係

表 29 明るさに対する認識と解説のわかりやすさのクロス集計表 (2)

虚無僧	明るさ		総計
	暗い	その他	
わかりにくい/ ややわかりにくい	21	66	87
その他	50	70	120
総計	71	136	207

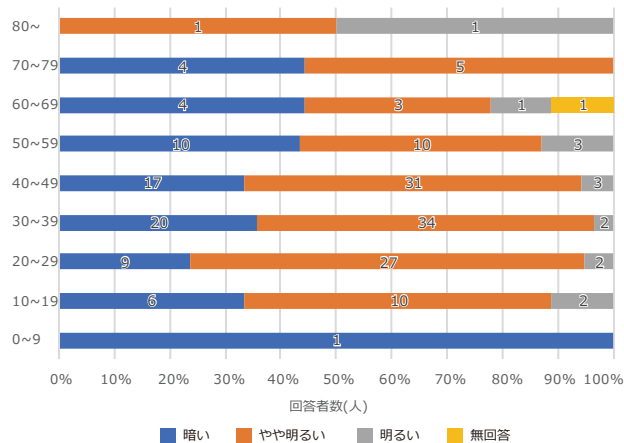


図 18 年齢層別の明るさに対する認識

定を行うと p 値は 0.01336 となり、有意な相関関係を認めることができる。

その他、明るさと相関する可能性が想定される変数として、年齢や文字の大きさがあげられる。2つの変数について、明るさとのクロス集計を試みた。

図 18・表 30 には年齢と明るさに対する認識とのクロス集計の結果を示した。データの少ない 0~9 歳、80 歳以上を別とすれば、いずれの年齢層においても「暗い」とした回答者は一定数おり、顕著な差は認められない。

図 19 には文字の大きさと明るさに対する認識とのクロス集計の結果を示した。文字の大きさを「小さい」とした群で「暗い」とした回答者の割合がやや大きいが、「小さすぎる」とした群ではそのような傾向は認められないので、文字を小さく感じている利用者ほど暗く感じているわけではない。

2.3. 未知の強み/課題の抽出

2.3.1. リピーター

来館回数について質問した設問 8 の集計結果から回答者のおよそ 3 分の 1 が 2 回以上来館しているリピーターであることがわかる。一定数のリピーターを獲得していることは現状の強みであるし、リピーターが必ずしも多くはないことは課題と言える。いずれにせよ、どのような利用者がリピーターとなっているのかを把握することで強み/課題が可視化できると考えられる。

来館回数を目的変数、全ての選択式質問項目を説明変数とする決定木分析を行った。その結果、図 20 の分類木が生成された。

来館回数を目的変数とした場合、最も不純度が低くなるよう分類する説明変数は居住地であり、居住地が「松戸市内」以外である群では来館が「はじめて」である割合が顕著に大きい。リピーターの多くは松戸市内からの来館者であると考えられる。居住地と来館回数をクロス集計した結果を表 31 に示した。また、表

32には居住地を松戸市内とそれ以外、来館回数をはじめとそれ以外に区分して再集計した結果を示した。表32の集計結果でカイ二乗検定を行うとp値は1.334e-07となり有意な相関関係が認められる。

一方で、居住地が「松戸市内」以外の群のうち、特定の年齢層ではデータは少ないが「3～5回目」の割合が大きい(図20)。年齢は「松戸市内」群の下位ノードでも説明変数として使用されており(図20)、来館回数と相関する可能性がある。

来館回数と年齢をクロス集計し、結果を表33・図21に示した。0～9歳と80歳以上はデータが少なく判断が難しい。その他の年齢層では10代でリピーターの割合が大きく、20～70代では年齢が上がるほどリピーターの割合が大きくなる傾向が認められる。

2.3.2. 三匹獅子舞の利用率

調査結果から三匹獅子舞は他の展示と比べて相対的に利用率が低いことが明らかになった(表9)。一方で、興味・関心をもった回答者の割合や満足度にならほど極端な差は認められない(表10; 表11; 図7)。利用率の低さは何に起因するのであろうか。

まず、想定される要因の1つは、三匹獅子舞が映像展示であり、他の展示とは形態が異なることである。三匹獅子舞では約13分間の映像を1時間に4回上映している。観覧に一定の時間を要すること、観覧を開始する時間に制約があることが利用を抑制している可能性がある。この想定が妥当であるならば、三匹獅子舞の利用率と常設展示の観覧に要した時間との間に相関関係が認められるはずである。表34には三匹獅子舞利用の有無と利用時間とのクロス集計の結果を示した。概ね利用時間が長いほど利用率が高い傾向を看取することができる。利用時間15分以下の利用率は相対的に高いが、映像が13分間なので全てを観覧したとは考えられず、誤回答を含む可能性がある。表34のデータでカイ二乗検定を行うとp値は0.05755となり、わずかに有意水準を上回る。試みに利用時間30分未満/以上に区分し(表29)、カイ二乗検定を行ったところ、p値は0.03782となり、有意な相関関係が認められる。

利用時間以外の変数との相関関係を検証するため、三匹獅子舞利用の有無を目的変数とした決定木分析を行った。三匹獅子舞に対する興味・関心の有無、三匹獅子舞の満足度を除く全ての選択式質問項目を説明変数とした。両者は三匹獅子舞を利用した場合に回答する項目であり、三匹獅子舞利用の有無と相関することは自明だからである。分析の結果図22のような分類木が生成された。分類木から、三匹獅子舞利用の有無について最も不純度が低くなる説明変数は二十世紀梨利用の有無であることがわかる。クロス集計の結果を表35に示した。二十世紀梨展示を見た群では三匹獅子舞の利用率が高くなっている。カイ二乗検定を行うとp値は1.697e-12となり、明らかに相関している。

二十世紀梨展示は三匹獅子舞展示に隣接して配置されており両者の利用率が相関することから、利用の有無の決定に展示の配置が関与している可能性がある。ここで、二十世紀梨の、三匹獅子舞とは反対側に隣接している虚無僧展示の利用と三匹獅子舞との相関関係を検討する。表36には三匹獅子舞と虚無僧の利用の有無をクロス集計した結果

表30 明るさに対する認識と年齢のクロス集計表(1)

年齢	明るさに対する認識(人)				総計
	暗い	やや明るい	明るい	無回答	
0-9	1	0	0	0	1
10-19	6	10	2	0	18
20-29	9	27	2	0	38
30-39	20	34	2	0	56
40-49	17	31	3	0	51
50-59	10	10	3	0	23
60-69	4	3	1	1	9
70-79	4	5	0	0	9
80-	0	1	1	0	2
総計	71	121	14	1	207

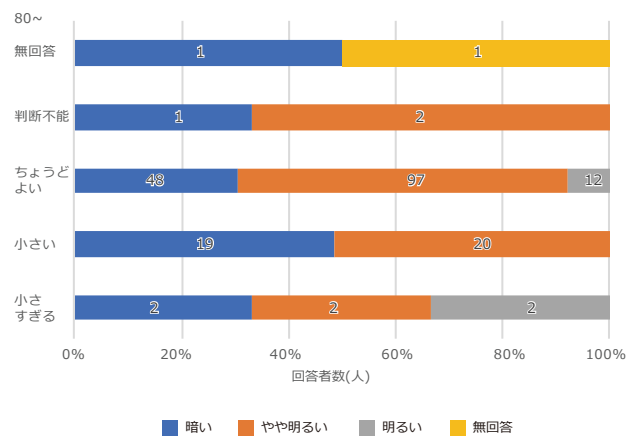


図19 文字の大きさとの関係

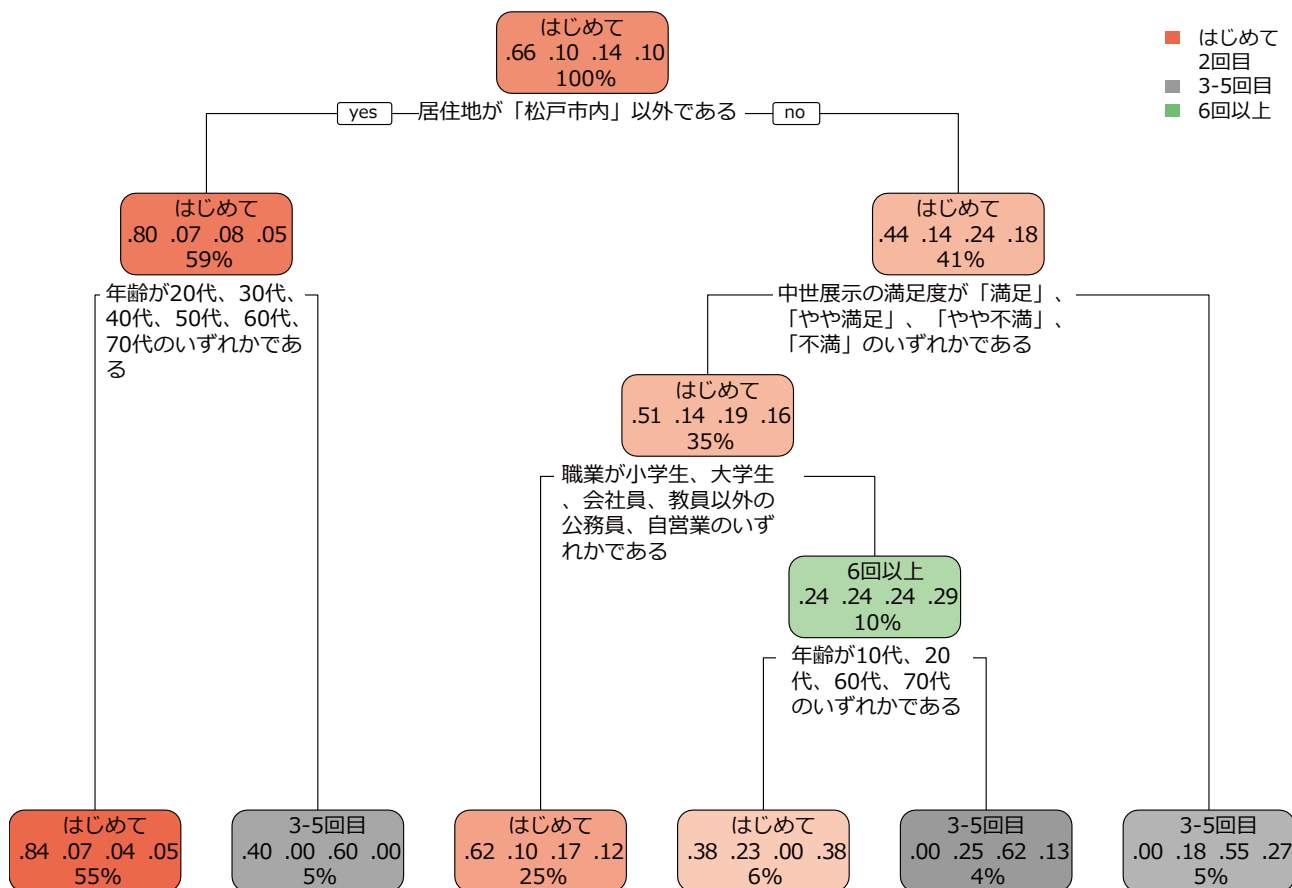


図 20 来館回数を目的変数とした分類木

表 31 来館回数と居住地のクロス集計表 (1)

居住地	明るさに対する認識 (人)				総計
	はじめて	2回目	3-5回目	6回以上	
松戸市内	37	12	20	15	84
松戸以外の千葉県	58	8	7	3	76
埼玉県	12	0	2	0	14
東京都	21	0	1	3	25
その他	5	0	0	0	5
無回答	3	0	0	0	3
総計	136	20	30	21	207

表 32 来館回数と居住地のクロス集計表 (2)

居住地	来館回数 (人)		総計
	はじめて	その他	
松戸市内	37	47	84
その他	99	24	123
総計	136	71	207

を示した。虚無僧を見た群では三匹獅子舞の利用率がやや高くなる。カイ二乗検定を行うと、p 値は 5.113e-07 となり有意な相関関係が認められる。

連続して配置されている虚無僧、二十世紀梨、三匹獅子舞の利用状況は相互に相関関係がある。虚無僧または二十世紀梨を見ていない場合は三匹獅子舞も高頻度で見えていない。その中でも、特に三匹獅子舞の利用率が最も低いという状況である。

3. 考察

3.1. 常盤平団地復元展示について

既知の強みとして検討した結果、従来の認識通りに人気の高い展示であることが確認された。一方で、60 歳以上の年齢層では利用がやや低調であった。高年齢層での利用を阻害している要因があるのだろうか。可能性の 1 つと

しては展示へのアクセスに難があることが考えられる。展示の入り口までは段差がやや大きい階段になっており、足の悪い利用者にとっては障壁となりうる。その他、高齢者にとって利用しにくい部分という観点から展示のハード面を点検する必要があるだろう。

また、高齢者層では複数回来館している利用者が相対的に多く（表、すでに見たことがあるため利用が低調であるという可能性も考えられない。たしかに年齢が上がるほどリピーターの割合が増えるが、リピーターであっても近現代展示は高率で利用されている。複数回の来館による飽きから利用率が低下する可能性は否定されており、高齢者層における利用率の低さは来館回数とは関係がない。

3.2. 展示室の明るさについて

既述のとおり、展示室が「暗い」と感じている利用者が3分の1にとどまるという調査結果は予想に反したものであった。調査前、筆者らは暗さが問題視されていると予想しており、予想が妥当なものであれば展示リニューアルにより明るい照明を設計するといった対応が可能となると考えていた。

表 30 明るさに対する認識と解説のわかりやすさのクロス集計表 (1)

年齢	明るさに対する認識 (人)				総計
	暗い	やや明るい	明るい	無回答	
0-9	1	0	0	0	1
10-19	6	10	2	0	18
20-29	9	27	2	0	38
30-39	20	34	2	0	56
40-49	17	31	3	0	51
50-59	10	10	3	0	23
60-69	4	3	1	1	9
70-79	4	5	0	0	9
80-	0	1	1	0	2
総計	71	121	14	1	207

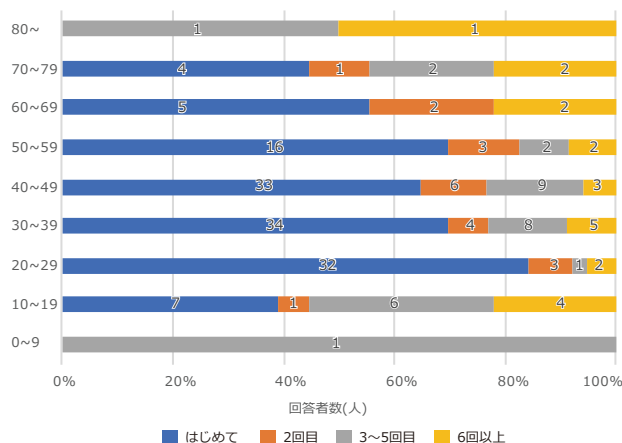


図 21 年齢層別の来館回数

表 34 三匹獅子舞展示利用の有無のクロス集計表

利用時間	三匹獅子舞の利用 (人)		総計	利用率 (%)
	見ていない	見た		
15分以下	5	7	12	58.3
15-30分	40	23	63	36.5
30-45分	31	30	61	49.2
45-50分	8	15	23	65.2
60分以上	19	29	48	60.4
総計	103	104	207	88.9

表 35 三匹獅子舞展示と二十世紀梨展示利用の有無のクロス集計表

二十世紀梨	三匹獅子舞の利用 (人)		総計	利用率 (%)
	見ていない	見た		
見ていない	57	9	66	13.6
見た	46	95	141	67.4
総計	103	104	207	50.2

表 36 三匹獅子舞展示と虚無僧展示利用の有無のクロス集計表

虚無僧	三匹獅子舞の利用 (人)		総計	利用率 (%)
	見ていない	見た		
見ていない	45	12	57	21.1
見た	58	92	150	61.3
総計	103	104	207	50.2

「暗い」と感じた3分の1の利用者にとっての問題は展示室を明るくすることで解決するのだろうか。「暗い」という認識との顕著な相関が認められたのは解説のわかりやすさであった。暗さに起因する解説の読みにくさが解説を「わかりにくい」と感じさせるのか、あるいはわかりにくさが「暗い」という認識に結びつくのか、因果関係は定かではない。文字の大きさと「暗い」という認識との間に相関関係は認められないので、暗さによって文字が読みにくくなっている可能性は低いだろう。

3.3. リピーターについて

来館回数と居住地とは相関関係があり、リピーターの多くは松戸市内に在住である。居住地が博物館に近く、比較的アクセスが容易であることが再来館につながっていると考えられる。また、松戸市出身者の場合は学校等の活動で来館した経験がある可能性も高い。

一方、松戸市以外からの来館者がリピーターである割合は必ずしも大きくないが、その中でも年齢層によって利用回数に差があることが明らかになった(図21)。10代では再来館の割合が比較的大きいが、松戸市内居住者群と同様に学校等での利用を経験している可能性がある。20代以上では年齢と再来館の割合が正相関することから、リピーターになる来館者は周期的に来館しており、リピーターの割合が累積的に増加していることが予想される。

3.4. 三匹獅子舞の利用率について

三匹獅子舞の利用率は他の展示と比べて相対的に低いが、興味・関心をもった回答者の割合は必ずしも大きくない。この結果は、三匹獅子舞がコンテンツとしての魅力を相対的に欠くために利用されていないわけではないことを示す。

利用時間との間に有意な相関関係が認められることから、時間に余裕のある利用者が三匹獅子舞を利用しているという予測は一定程度妥当であるといえる。ただし、三匹獅子舞を利用した結果として予定上に利用時間が伸びている可能性も考えられる。

また、虚無僧や二十世紀梨の利用率との相関が認められることから、主題展示室をまるごと利用しない利用者が一定数存在すると考えられる。総合展示室で通史展示は一応完結しており、一区切りついたところで観覧を終わってしまうという行動パターンが想定される。

主題展示室の中でもとりわけ三匹獅子舞の利用率が低い状況は展示の配置に起因している可能性がある。常設展示の出口に向かう通路・階段は虚無僧と二十世紀梨との間に位置しており(図1)、二十世紀梨と三匹獅子舞は奥まった位置にある。一番奥の展示までは観ずに、あるいはその存在を見落として出口へと向かう利用者が一定数存在する可能性がある。

4. 課題と展望

本稿では調査結果の概要を示し、そのうち選択式回答の項目のみを対象とした定量的分析を行った。既知の強み/課題についてデータによる裏付けが得られた一方で、展示室の明るさについては想定とは異なる結果が得られた。

本稿の分析は全てのデータおよびデータの組み合わせについて網羅しているわけではない。また、自由記述式回答の項目については本稿では扱わなかった。これらの点を補う分析を実施することで新たな知見の獲得が期待される。

今回の調査は新型コロナウイルス感染症拡大下という特殊な条件下で実施された。また、サンプルサイズは必ずしも十分ではなかった。こうした点を補うために、サンプルサイズを上げた調査や、異なる条件下での再調査が望まれる。そのような調査が実施された場合にも、今回の調査・分析結果は比較資料として有用であると考えられる。

註

- 1) 調査対象期間中、業務の都合により全ての開館日に調査を実施できなかったわけではない。また、常駐した調査員は1名であったため、聞き取り中に観覧を終えた利用者には回答を依頼することができない場合もあった。
- 2) 調査は新型コロナウイルスの感染が拡大している時期に実施したため、感染防止の観点から利用者の個人端末による入力を推奨した。
- 3) 100回サンプリングを行えば95回は調査結果 $\pm 7\%$ の範囲に実際の値が含まれるということ。
- 4) 統計web <https://bellcurve.jp/statistics/blog/14347.html>

- 5) 末尾には回答フォーム全体を付した。
- 6) 前回来館が1年超2年未満の場合に該当する選択肢が存在しない。
- 7) 展示製作者の意図とは異なる順序での観覧が否定されるべきだということではない。
- 8) 組み合わせによってはカイ二乗検定に不適な期待確率が含まれていたため、フィッシャーの正確確率検定を用いた。

松戸市立博物館常設展示利用者調査

I. ご自身のことについて教えてください。

1. 年齢 該当するものを選んでください。

- 0～9歳
- 10代
- 20代
- 30代
- 40代
- 50代
- 60代
- 70代
- 80歳以上



2. あなたのご職業・校種

- 小学生
- 中学生
- 高校生
- 大学生
- 大学院生
- 専門学校生
- 会社員
- 教員
- 公務員・団体職員（教員以外）
- 研究職（人文系）
- 自営業
- 無職
- その他: _____

3-1. ご住所

- 松戸市内
- 松戸市以外の千葉県
- 埼玉県
- 東京都
- その他: _____



2. あなたのご職業・校種

- 小学生
- 中学生
- 高校生
- 大学生
- 大学院生
- 専門学校生
- 会社員
- 教員
- 公務員・団体職員（教員以外）
- 研究職（人文系）
- 自営業
- 無職
- その他: _____

3-1. ご住所

- 松戸市内
- 松戸市以外の千葉県
- 埼玉県
- 東京都
- その他: _____



3-2. (3-1で「松戸市内」以外を選んだ方) お住まいの市区町村

回答を入力

4. 本日はどのような目的でいらっしゃいましたか。(複数回答可)

- 常設展示を見るため
- 企画展・資料展を見るため
- 体験教室・講座・講演会に参加するため
- 復元竪穴住居を見るため
- プレイルーム、図書閲覧コーナーを利用するため
- 喫茶コーナーを利用するため
- たまたま通りかかった
- その他: _____

5. 誰と一緒にいらっしゃいましたか。(複数回答可)

- 家族
- 友人
- 学校の団体
- 職場の仲間
- ひとり
- その他: _____



7. 本日はどのような交通手段でいらっしゃいましたか。複数回答可

自動車

電車

バス

自転車

バイク

徒歩

その他: _____

8. 松戸市立博物館にいらっしゃるのは何回目ですか。

はじめて

2回目

3～5回目

6回以上

9. 設問8で2回目以上を選んだ方にうかがいます。前回来館されたのはいつですか。

1年以内

2～4年前

5～10年前

10年以上前

わからない



10. 同行者の方の人数を教えてください。

- 1人
- 2人
- 3人
- 4人
- 5人以上

11. 同行者方の続柄を教えてください。

回答を入力

12. 同行者の方の年齢・職業・校種を教えてください。

回答を入力

2/3 ページ

戻る

次へ

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。 [不正行為の報告](#) - [利用規約](#) - [プライバシーポリシー](#)

Google フォーム

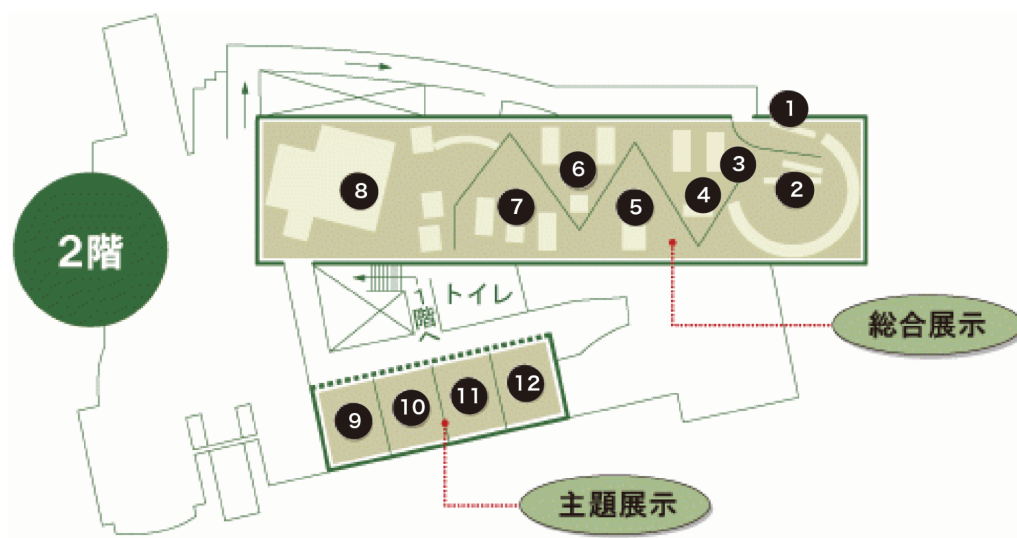


松戸市立博物館常設展示利用者調査

II. 常設展示に対する評価

現在の常設展示の良い部分、悪い部分を確認するための調査です。当館の常設展示は、「総合展示（通史展示）」と「主題展示」の2つがあり、下記のような配置になっています。配置図をみながらご回答ください。

常設展示配置図



- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1: 人類の登場（旧石器） | 7: 町場と村（近世） |
| 2: 狩りと採集のムラ（縄文） | 8: 都市へのあゆみ（近現代） |
| 3: 稲作社会の誕生①（弥生） | 9: 考古学と科学の眼 |
| 4: 稲作社会の誕生②（古墳） | 10: 虚無僧寺一月寺 |
| 5: 下総国のはじまり（古代） | 11: 二十世紀梨の誕生 |
| 6: 武士と民衆（中世） | 12: 三匹獅子舞 |



13. どの展示をご覧になりましたか。ご覧になった展示をすべて選択してください。見ていないもの、素通りしたもの、ながめただけのものは選択しないでください

- 1: 人類の登場（旧石器時代）
- 2: 狩りと採集のムラ（縄文時代）
- 3: 稲作社会の誕生①（弥生時代）
- 4: 稲作社会の誕生②（古墳時代）
- 5: 下総国のはじまり（古代）
- 6: 武士と民衆（中世）
- 7: 町場と村（近世）
- 8: 都市へのあゆみ（近現代）
- 9: 考古学と科学の眼
- 10: 虚無僧寺一月寺
- 11: 二十世紀梨の誕生
- 12: 三匹獅子舞



14. 設問13で選択したものの中で、特に興味・関心をもったものがあれば選択してください。（複数回答可）

- 1: 人類の登場（旧石器時代）
- 2: 狩りと採集のムラ（縄文時代）
- 3: 稲作社会の誕生①（弥生時代）
- 4: 稲作社会の誕生②（古墳時代）
- 5: 下総国のはじまり（古代）
- 6: 武士と民衆（中世）
- 7: 町場と村（近世）
- 8: 都市へのあゆみ（近現代）
- 9: 考古学と科学の眼
- 10: 虚無僧寺一月寺
- 11: 二十世紀梨の誕生
- 12: 三匹獅子舞



15. 設問13で選択した展示について、満足度を教えてください。（複数回答可）

	満足	やや満足	やや不満	不満	判断不能
1: 人類の登場 (旧石器時代)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2: 狩りと採集 のムラ (縄文 時代)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3: 稲作社会の 誕生① (弥生 時代)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4: 稲作社会の 誕生② (古墳 時代)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5: 下総国のは じまり (古 代)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
6: 武士と民衆 (中世)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
7: 町場と村 (近世)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
8: 都市へのあ ゆみ (近現 代)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
9: 考古学と科 学の眼	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
10: 虚無僧寺 一月寺	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
11: 二十世紀 梨の誕生	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
12: 三匹獅子 舞	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>



16. 展示室全体の観覧にどのくらい時間がかかりましたか。（ひとつ回答）

- 15分以下
- 15～30分
- 30～45分
- 45～60分
- 60分以上

17. 展示されている資料の数についてどのように感じますか。（ひとつ回答）

- 少なすぎる
- やや少ない
- やや多い
- 多すぎる
- 判断できない

18. パネル等の解説はわかりやすいものでしたか（ひとつ回答）

- わかりやすい
- ややわかりやすい
- ややわかりにくい
- わかりにくい
- 判断できない



19. 解説の内容は難しかったですか。（ひとつ回答）

- 簡単
- やや簡単
- ちょうどよい
- やや難しい
- 難しい
- 判断できない

20. 解説の文字の大きさはどのように感じましたか。（ひとつ回答）

- 小さすぎる
- やや小さい
- ちょうどよい
- 大きい
- 判断できない

21. 展示の順路はわかりやすかったですか。（ひとつ回答）

- わかりやすかった
- 少し迷った
- とても迷った



22. 展示室全体の明るさはどのように感じましたか。（ひとつ回答）

- 暗い
- やや明るい
- 明るい
- 明るすぎる

23. 展示全体の総合的な満足度はどのくらいですか。（ひとつ回答）

- 大変満足
- 満足
- やや不満
- 不満
- 判断できない

24. 展示室全体の中で、印象に残っている展示物や展示テーマはありましたか。ありましたら具体的に教えてください。なぜ印象に残っているのかも教えてください。

回答を入力

25. 展示室の中で、困ったこと、分からなかったことなどがありましたら具体的に教えてください。

回答を入力



26. その他、博物館に関するご意見・ご感想・ご要望等がありましたら、どんなことでも結構ですので、ご記入ください。

回答を入力

調査は以上です。ご協力いただき、ありがとうございました。

3/3 ページ

戻る

送信

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。 [不正行為の報告](#) - [利用規約](#) - [プライバシーポリシー](#)

Google フォーム

